

---

## 第2章

### モデル校の取組事例の整理



## 第2章 モデル校の取組事例の整理

### 2-1. モデル校の取組内容の整理

ここでは、モデル事業の受託機関である都道府県教育委員会等から提出された事業計画書をもとに、モデル事業の実施体制や連携機関等を整理するとともに、本年度のモデル事業における各モデル校の取組内容を把握・整理した。

#### (1) モデル事業の実施体制

##### ① 推進委員会の設置形態

本モデル事業は13の都道府県教育委員会と1学校法人の計14機関が実施主体となっており、計17校においてモデル事業が実施された。

本モデル事業を実施するにあたっては、関係機関等からなる推進委員会を設置して取組を進めることとしており、17校のほとんどにおいてモデル校（市町村）に推進委員会が設置されているほか、10道県では都道府県レベルでも推進体制が構築されている。

また、推進委員会の下部組織としてワーキンググループを設置したり、モデル事業での取組を広く県内に広げるため栄養教諭等の連絡協議会を設置している地域もみられた。

推進委員会等の設置形態	全体	小	中	高
道・県推進委員会(協議会)	10	8	2	0
モデル校(市町村)推進委員会	14	11	2	1
ワーキンググループ、連絡協議会等	4	3	1	0

##### 推進委員会等の設置形態

事業実施機関 (モデル事業受託機関)	モデル校	校種	道県推進委員会 (協議会)	モデル校・市町村 推進委員会	ワーキンググループ、 連絡協議会等
北海道教育委員会	七飯町立七重小学校	小	○	○	
青森県教育委員会	田子町立田子小学校	小		○	○
山形県教育委員会	川西町立小松小学校	小		○	
福島県教育委員会	三春町立三春中学校	中	○	○	○
福島県教育委員会	新地町立新地小学校	小	○	○	
栃木県教育委員会	宇都宮市立今泉小学校	小	○	(校内組織を活用)	○
学校法人佐藤栄学園	花咲徳栄高等学校	高		○	
石川県教育委員会	加賀市立山代小学校	小		○	
山梨県教育委員会	甲州市立奥野田小学校	小	○	○	○
岐阜県教育委員会	下呂市立下呂小学校	小	○	○	
愛知県教育委員会	瀬戸市立水野中学校	中	○	○	
三重県教育委員会	名張市立名張小学校	小		○ (3校合同)	
	名張市立つつじが丘小学校	小			
	名張市立百合が丘小学校	小			
島根県教育委員会	浜田市立三隅小学校	小	○	○	
徳島県教育委員会	三好市立辻小学校	小	○	○	
福岡県教育委員会	宇美町立宇美小学校	小	○	○	

## ②推進委員会等の構成メンバー

各推進委員会の体制をみると、モデル校の学校長と栄養教諭、及び市町村教育委員会はすべての地域で推進委員会の構成メンバーとなっており、都道府県教育委員会も学校法人が実施主体の1地域を除くすべての地域で推進委員会に参画している。

このほかでは、モデル校の養護教諭や市町村の食育関連部局、PTA関係者、大学関係者などの参画が比較的多くみられる。

推進委員会等の構成メンバー	全体	小	中	高
モデル校 学校長	15	12	2	1
モデル校 教頭	7	5	1	1
モデル校 担当教諭	7	6	0	1
モデル校 栄養教諭	15	12	2	1
モデル校 養護教諭	14	11	2	1
都道府県教育委員会	14	12	2	0
都道府県関係部局職員	5	4	1	0
市町村教育委員会	15	12	2	1
市町村関係部局	12	10	1	1
校医など医療関係者	3	3	0	0
PTA関係者	13	10	2	1
生産者・関係団体	10	8	2	0
地元幼稚園・小・中学校、高等学校関係者	5	4	0	1
地域団体等	5	4	0	1
大学関係者	13	10	2	1
民間企業	3	3	0	0

### ③連携機関と連携内容

モデル校において取組を進める上で連携を図るとされている機関について整理すると、モデル校の所在市町村の関係部局や大学などの高等教育機関との連携について多く挙げられている。このほか、地域の生産者や関係団体との連携や、民間企業・民間団体、地元の幼稚園や他校との連携についても比較的多くみられる。

連携機関の構成	全体	小	中	高
都道府県教育委員会	3	2	1	0
都道府県関係部局	4	3	1	0
市町村教育委員会	3	2	1	0
市町村関係部局	12	9	2	1
大学など高等教育機関	12	9	2	1
民間企業・民間団体	8	7	0	1
医療関係者・医師会	4	3	1	0
PTA等	7	6	1	0
食育関係団体(専門家や給食会等含む)	6	6	0	0
生産者・関係団体(JAなど)	9	8	1	0
地元幼稚園・小・中学校、高等学校	8	5	2	1
地域団体等	2	2	0	0

各連携機関との間で予定されている連携内容をみると、市町村関係部局とは、関係機関や事業等との連絡・調整のほか、出前授業や講演会の講師派遣などで連携を図る例が多い。また、大学等の高等教育機関や民間企業等に調査・分析の実施や指導・助言等で協力を得たり、地域の生産者等と様々な場面で連携を図るとしているモデル校も比較的多くみられる。

連携機関	連携内容	調査・分析、データ集計	指導・助言	出前授業や講演会の講師派遣	研究会や講座等での運営協力	情報発信や広報等での協力	関係者間での情報提供・情報共有	体験活動やイベント等の開催協力	生産物等の提供や流通など	関係機関や事業等との連絡・調整	食育指導等に関する連携や交流
都道府県教育委員会		0	2	0	0	0	1	0	0	1	0
都道府県関係部局		0	2	1	0	0	1	1	1	2	0
市町村教育委員会		0	1	0	1	0	0	0	0	1	0
市町村関係部局		0	3	4	1	3	3	2	1	7	0
大学など高等教育機関		8	11	3	0	0	0	0	0	0	0
民間企業・民間団体		3	0	0	0	1	0	1	0	0	0
医療関係者・医師会		0	4	1	0	0	0	0	0	0	0
PTA等		0	2	0	2	3	3	3	0	1	1
食育関係団体(専門家や給食会等)		1	2	1	4	0	1	2	0	1	0
生産者・関係団体(JA等)		1	6	5	1	0	1	4	3	1	0
地元幼稚園・小・中学校、高等学校		0	0	0	1	0	3	2	1	2	4
地域団体等		0	2	0	0	0	0	1	0	0	0

## (2) モデル事業の取組内容

各モデル校では、モデル事業の取組として、栄養教諭を中心に、家庭、地域の生産者や関係機関・団体等と連携ながら、教科等における食に関する指導の充実を図るとともに、実践的な食育や保護者を巻き込んだ取組等を実施することが計画されている。

ここでは、各モデル校において計画されている食育に関する取組について、事業計画書の記載から特徴的な取組を整理し、類型化した。

多くのモデル校で、教科担任等と栄養教諭の連携による食に関する指導など、教科等における食に関する指導の充実を図る取組がみられるほか、事業の成果・効果を検証するための各種調査の実施や体験活動の実施などの取組も比較的多くみられた。

学校給食に関しては、地場産物の活用や伝統食を取り入れたメニューの考案などの取組がみられた。

保護者等を巻き込んだ取組としては、食育に関する講演会や講座の開催や、保護者の食に関する意識啓発や情報提供といった、保護者に働きかける内容の取組のほか、学校と家庭との連携による取組を展開したり、親子で参加する教室やイベントを実施するなど、保護者の積極的な参画を促す取組も多くみられた。

取組内容(類型化)	全体	小	中	高
教科等における食に関する指導の充実	12	10	2	0
食育や食生活に係る各種調査等の実施	5	3	1	1
体験教室や体験活動の実施	5	4	1	0
食育メニューやレシピの開発	3	3	0	0
専門家等による個別指導等の実施	3	3	0	0
地場産品活用など学校給食の工夫	6	5	0	1
伝統食など食文化の継承	4	3	0	1
他校と連携した実習や活動	4	2	1	1
食育に関する講演会や講座の開催	9	9	0	0
保護者に対する啓発・情報提供	8	5	2	1
学校と家庭との連携による取組	8	7	0	1
親子参加の教室やイベント実施	8	6	1	1
家庭や地域等に対する啓発活動	7	5	1	1
食育推進体制の構築(研究会を含む)	2	2	0	0
グループ研究活動の実施	1	0	0	1
システム開発など	2	1	0	1

事業実施機関 モデル校	予定している主な取組の内容 (事業計画書より抜粋)	取組内容の類型化															
		教科等における食に関する指導の充実	食育や食生活に係る各種調査等の実施	体験教室や体験活動の実施	食育メニューやレシピの開発	専門家等による個別指導等の実施	地場産品活用など学校給食の工夫	伝統食など食文化の継承	他校と連携した実習や活動	食育に関する講演会や講座の開催	保護者に対する啓発・情報提供	学校と家庭との連携による取組	親子参加の教室やイベント実施	家庭や地域等に対する啓発活動	食育推進体制の構築(研究会を含む)	グループ研究活動の実施	システム開発など
北海道教育委員会 七飯町立七重小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭・地域と連携した早寝・早起き・朝ごはん運動の取組の実施</li> <li>先進地域の学校を参考した授業の研究</li> <li>家庭との連携を強化した食に係る研究授業の公開と研究協議の実施</li> <li>地場産物を活用した学校給食の実施</li> <li>PTA食育教室の開催(年2回)</li> <li>親子料理教室の開催(年1回)</li> <li>「朝食」をテーマにした食育講演会の開催</li> <li>児童生徒の食生活等実態調査の実施</li> </ul>	○	○				○		○			○	○				
青森県教育委員会 田子町立田子小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>野菜の栽培体験や生産現場訪問などの体験活動</li> <li>教育課程と連動した食育学習会、教科での指導</li> <li>生産者との交流給食や伝統食によるバイキング給食</li> <li>給食目標の行動目標化や、完食メニューの意識付け</li> <li>異学年交流給食(なかよし給食)等の会食機会</li> <li>児童による給食メニュー考案</li> <li>肥満傾向児への個別指導や校医による指導</li> <li>親子クッキング教室や親子給食会の設定</li> <li>食育の重要性を掲載した啓蒙資料の全世帯配布など</li> </ul>	○		○			○	○					○	○			
山形県教育委員会 川西町立小松小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>「食育だより」の児童家庭、地域への配付</li> <li>地域内に「食育のぼり」の設置と意識醸成</li> <li>夏休み中に「朝食レシピ」を親子で考え、実際に調理してレシピを募集</li> <li>地元高等学校演劇部と連携して食育をテーマにしたミュージカル実施</li> <li>PTAと連携した食育講演会の実施</li> <li>地元高等学校と連携した親子での農業体験、食事会の実施</li> <li>栄養教諭と養護教諭が連携した保護者に対する個別相談</li> <li>朝食の摂取状況や食事内容、生活状況等の記録を親子での取組</li> </ul>					○	○	○		○	○			○			
福島県教育委員会 三春町立三春中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人一人の生活習慣と運動量・体格等の実態把握・分析</li> <li>食に関する指導と保健体育科を中心とした身体運動プログラムの取組</li> <li>食の流通や安全等の視点で持続可能な社会を見つめる取組</li> <li>給食試食会を通じて食生活の在り方を保護者に啓発</li> <li>生徒保護者対象の食生活アンケートを基にした評価指標の検証</li> </ul>	○	○										○				
福島県教育委員会 新地町立新地小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>食育講座(和食・地場産物活用)や食育講演会の実施</li> <li>教科等における栄養教諭と教科担任との連携を図った指導の充実</li> <li>放射性物質検査の結果を基にした給食への地場産物活用と家庭への啓発</li> <li>ICTを活用した調査とデータ処理によるリアルタイムな情報発信</li> </ul>	○	○				○			○	○						
栃木県教育委員会 宇都宮市立今泉小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>栄養教諭を核とした食育推進の校内推進体制の構築</li> <li>学校と家庭を結ぶ生活習慣定着のための「食育チャレンジシート」の活用</li> <li>大学生による簡単朝食メニュー実演や食育講演会、親子料理教室の実施</li> <li>大学教授による助言や支援</li> <li>高等学校等の協力を得て食育出前授業や交流活動の実践</li> <li>児童会活動を活用した「生活改善がんばり隊」の結成</li> <li>保護者・地域企業を対象とした外部講師による食育講演会の開催</li> </ul>	○								○	○		○	○		○	
学校法人佐藤栄学園 花咲徳栄高等学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>食育実践科生徒による生徒や教職員、保護者等に対する食事の提供(アスメン、スタメン、CaFe メンの提供→共食の場)</li> <li>食育実践科生徒による生徒や保護者への食育指導</li> <li>学習者同士が問題を解決していくグループダイナミクスの取組</li> <li>生活アンケート調査、諸計測(ヘモグロビンと骨密度)のデータ収集</li> <li>地元小中学校と連携した地元食材を取り入れた調理実習</li> <li>地元小中学校と連携した食文化、食事作法等を含めた食育指導</li> <li>アスメン、スタメンの提供や普及、学校給食へのメニュー提供</li> <li>地域住民と協働した食育指導や食育イベントの実施</li> </ul>	○					○	○	○		○	○	○	○		○	○
石川県教育委員会 加賀市立山代小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>食に関する指導の充実(食や栄養、健康に関する学習の取組)</li> <li>生産者、料理人等による料理教室や企業による出前授業</li> <li>伝統産業に関わる方の協力による親子体験活動の実施</li> <li>学校とPTAの連携による親子体験活動の実施</li> <li>大学教授による講演会、学校医・養護教諭・栄養教諭による講話</li> <li>学校とPTAの連携による取組(食文化に関する講演等)</li> </ul>	○								○			○				

事業実施機関 モデル校	予定している主な取組の内容 (事業計画書より抜粋)	取組内容の類型化															
		教科等における食に関する指導の充実	食育や食生活に係る各種調査等の実施	体験教室や体験活動の実施	食育メニューやレシピの開発	専門家等による個別指導等の実施	地場産品活用など学校給食の工夫	伝統食など食文化の継承	他校と連携した実習や活動	食育に関する講演会や講座の開催	保護者に対する啓発・情報提供	学校と家庭との連携による取組	親子参加の教室やイベント実施	家庭や地域等に対する啓発活動	食育推進体制の構築(研究会を含む)	グループ研究活動の実施	システム開発など
山梨県教育委員会 甲州市立奥野田小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭での取組(家族と一緒に野菜作りや料理、弁当作りを実施)の充実</li> <li>保護者への働きかけを通じた家庭における食事内容や運動習慣の改善</li> <li>地域の生産者や保護者から学び、体験する機会の提供(講演会など)</li> <li>栄養教諭や外部講師による保護者の専門的な知識・技術の涵養(レシピ集、親子学習会、マナー教室等)</li> <li>食育研究・実践体制による教科・特別活動等での食育プログラムによる教育(運動量記録や運動指導等)</li> <li>公開授業やシンポジウム、ホームページ等を通じた保護者への働きかけ</li> </ul>	○		○						○	○		○	○			
岐阜県教育委員会 下呂市立下呂小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>食習慣・生活習慣アンケート、食事調査の実施</li> <li>栄養教諭と学級担任との食に関するTT授業など指導の実施</li> <li>食と命をつなぐ食育講演会等の実施</li> <li>「家庭の食育マスター」として児童が保護者に食に対して働きかけ</li> <li>PTA活動による保護者への食育の啓発(家族クッキングや給食試食会等)</li> <li>ポスター、カレンダーの作成を通して、家庭や地域への食育の啓発</li> <li>塩分測定器による家庭の食事の汁物の塩分量の測定</li> <li>学校給食をモデルとした献立や地域の食材を活用した献立の開発</li> </ul>	○	○	○						○	○		○				
愛知県教育委員会 瀬戸市立水野中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>食に関する指導の充実(教科等での指導、生活習慣の保健指導、餅米や野菜の栽培活動、食品加工をはじめとした様々な体験活動の実施など)</li> <li>校区内小学校との連携を図り発達段階に応じた給食指導の計画作成</li> <li>親子で「食についてのスタディツアー」を実施し、体験しながら学ぶ機会を設置</li> <li>栄養教諭が家庭科教諭や体育教諭と連携して食や生活習慣を指導</li> <li>PTAと連携し保護者を対象とした給食試食会や料理教室等を実施</li> <li>モデル校の取組の情報発信による地域への啓発</li> </ul>	○		○				○		○		○	○				
三重県教育委員会 名張市立名張小学校 同 つつじが丘小学校 同 百合が丘小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校給食関係者や食育関係者を対象とした食育研修会の開催</li> <li>新1年生及び保護者対象の給食試食会等で栄養教諭や生産者からの講話</li> <li>学級担任・教科担任による食に関する指導の充実(地域の農産物や郷土料理、食文化など)</li> <li>チェックシートを活用した各家庭における生活習慣の見直し</li> </ul>	○						○		○	○			○			
島根県教育委員会 浜田市立三隅小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>島根県版「食の学習ノート」を活用した食に関する指導と親子体験活動</li> <li>毎月1回地魚を給食で提供し、魚についての知識を得る機会を設定</li> <li>給食時間を活用して「食(魚)」について学び食べる機会を設定</li> <li>自分で作る「お弁当の日」を年3回実施</li> </ul>			○			○					○					
徳島県教育委員会 三好市立辻小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年・教科間の関連を生かした食に関する授業の実施</li> <li>保護者参画で作成する食育通信の発行</li> <li>食育家庭研修資料の配付</li> <li>親子体験学習プログラムの開発と実施</li> <li>食育交流会、食育講演会の実施</li> <li>地域食育ツアーの計画と実施</li> <li>食育ソフト「元気君」(仮称)の開発</li> <li>学校支援ボランティアの活用</li> <li>食育評価システムの構築</li> </ul>	○		○						○		○	○				○
福岡県教育委員会 宇美町立宇美小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別活動・体育科(保健領域)での生活習慣改善に向けた指導</li> <li>生活科・総合学習の時間・家庭科での体験活動を位置付けた指導</li> <li>保護者・地域の方など宇美町給食応援団による給食訪問サポート</li> <li>給食大好き!「もぐもぐカード」(給食を食べたか)を活用した取組</li> <li>関係者が連携した個別的な相談指導の取組</li> <li>「朝食いきいきシート」を活用した学校と家庭との連携</li> <li>「子どもが作る弁当の日」や「子ども料理名人」の取組</li> <li>PTAが行う夏休み・冬休み中の家庭における取組</li> <li>「うみ共食の日」「うみ朝食の日」の設定</li> <li>親子郷土料理教室や食に係る保護者対象の講習会の実施</li> </ul>	○			○	○					○	○	○				

## 2-2. 栄養教諭等に対するアンケート調査の実施

### (1) 調査の概要

モデル事業に係る取組を展開する上での各モデル校における問題・課題やその解決方策、取組に対する児童生徒・保護者等の反応や成果等については、実際に各モデル校において食育推進の中心的な役割を果たしている栄養教諭・学校栄養職員（以下「栄養教諭等」という。）が最も把握していると考えられる。

このため、モデル事業に関わっている栄養教諭等に対してアンケート調査を実施し、取組の中で担っている役割や具体的な活動内容、モデル事業に取り組む中での配慮点、取組を通じて児童生徒や保護者等に見られた変化や具体的な効果・成果、取組上の問題点・課題等を把握した。

調査の実施時期と調査項目は以下の通りである。

図表2 栄養教諭等に対するアンケート調査の概要

調査時期	調査項目
<p>第1回</p> <p>平成 29 年</p> <p>10 月実施</p>	<p>Q1 モデル事業以前の(昨年度までの)児童生徒の食習慣や食生活における課題</p> <p>Q2 モデル事業以前の(昨年度までの)保護者(家庭)における食育推進上の課題</p> <p>Q3 給食に関するデータのうち把握しているもの</p> <p>Q4 モデル事業以前の(昨年度までの)食に関する指導や活動において使用していた教材</p> <p>Q5 モデル事業における栄養教諭等としての具体的な取組内容</p> <p>Q6 Q5のうち特に力を入れて取り組んでいる(取り組む予定の)活動</p> <p>Q7 モデル事業における「つながり」(保護者や地域・団体等との連携)に対する配慮や工夫</p> <p>Q8 すでに実施したモデル事業の取組の中で児童生徒や保護者に好評だった活動</p> <p>Q9 モデル事業を通じて児童生徒や保護者等にみられ始めている変化</p> <p>Q10 モデル事業の成果・効果を検証するための独自評価指標</p>
<p>第2回</p> <p>平成 30 年</p> <p>1 月実施</p>	<p>Q1 児童生徒に好評だった取組と得られた成果・効果</p> <p>Q2 保護者に好評だった取組と得られた成果・効果</p> <p>Q3 他の教職員に好評だった取組と得られた成果・効果</p> <p>Q4 地域住民や生産者、関係機関等に好評だった取組と得られた成果・効果</p> <p>Q5 取組を通じた成果を示す独自評価指標の結果</p> <p>Q6 本事業において栄養教諭として取り組んだこと</p> <p>Q7(1)本事業の取組を通じて得られた成果や手応え</p> <p>Q7(2)本事業に取り組む中で感じた問題・課題</p> <p>Q8(1)学校と家庭や地域等との連携など「つながる食育」推進という点で得られた成果・効果</p> <p>Q8(2)学校と家庭や地域等との連携など「つながる食育」を推進する上での問題・課題</p> <p>Q9 今後の食育推進に向けた意見等</p>

## (2) 第1回アンケート調査の結果の整理

### ①モデル事業に取り組む以前の(昨年度までの)各モデル校の食育に関する状況や課題等

#### i) 児童生徒や保護者の食育推進上の課題

昨年度までの各モデル校における児童生徒の食習慣や食生活における課題をみると、「食事マナーが身についていない子供が多い」が13校(76.5%)と最も多くから挙げられたほか、「好き嫌いの多い子供が増えている」(12校・70.6%)や、「栄養バランスの取れた食事が取れていない子供が増えている」(10校・58.8%)など食事の内容に関わる課題も多く指摘されている。また「睡眠時間が不足している子供が多い」も半数以上で課題となっている。

Q1 モデル事業以前の(昨年度までの)児童生徒の食習慣や食生活における課題(MA)

	全体	割合	
回答数(N)	17	100.0%	
1 朝食欠食率が相対的に高い(改善しない・県平均より悪い, など)	8	47.1%	
2 家庭での孤食が増えている(共食の割合が向上しない・県平均より悪い, など)	7	41.2%	
3 栄養バランスの取れた食事が取れていない子供が増えている	10	58.8%	
4 好き嫌いの多い子供が増えている(改善しない)	12	70.6%	
5 間食をとる子供が多い(増えている・減らない, など)	5	29.4%	
6 食事マナーが身についていない子供が多い(増えている・改善しない)	13	76.5%	
7 給食の食べ残しが増えている(減らない・県平均より多い, など)	5	29.4%	
8 ゆっくりよく噛んで食べるなど食に関する意識が低い(向上しない)	8	47.1%	
9 伝統的な食文化や行事食に対する関心が低い(向上しない)	9	52.9%	
10 体調不良を訴える子供が増えている	2	11.8%	
11 肥満傾向にある子供が増えている(出現率が改善しない・変動が大きい, など)	9	52.9%	
12 痩身傾向にある子供が増えている(出現率が改善しない・変動が大きい, など)	3	17.6%	
13 体力・運動能力が相対的に低い(体力・運動能力の向上に課題がある)	5	29.4%	
14 適度な運動を行っている子供が少ない(減っている)	3	17.6%	
15 睡眠時間が不足している子供が多い(増えている)	10	58.8%	
16 その他	1	5.9%	

一方、モデル事業に取り組む以前の(昨年度までの)取組の中で、保護者(家庭)における食育の推進に関しどのような課題があったかをみると、「家庭における正しい食生活の実践に関する意識が低い」が13校(76.5%)と最も多く、次いで「栄養バランスを考えた食事など食事づくりに対する意識が低い」が11校(64.7%)と多くから指摘されている。

Q2 モデル事業以前の(昨年度までの)保護者(家庭)における食育推進上の課題(MA)

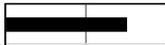
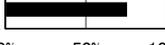
	全体	割合	
回答数(N)	17	100.0%	
1 給食試食会や食育に関する講演会などへの参加率が低い	10	58.8%	
2 家庭における正しい食生活の実践に対する意識が低い(ばらつきが大きい)	13	76.5%	
3 栄養バランスを考えた食事など食事づくりに対する意識が低い(ばらつきが大きい)	11	64.7%	
4 家庭での共食回数が低い(ばらつきが大きい・改善しない, など)	7	41.2%	
5 その他	1	5.9%	
6 保護者(家庭)の食育に関する取組や意識は把握していない	1	5.9%	

## ii) モデル事業以前の給食に関するデータの把握状況

給食を実施しているモデル校（16校）における給食に関するデータの把握状況をみると、「都道府県内産食材の使用割合」は毎年6月と11月に実施される学校給食栄養報告によりほぼ全校で把握されているほか、「市町村内産食材の使用割合」も同調査において併せて把握している学校が多い。

また、「給食における郷土食の提供回数」についても、献立からカウントする方法を中心に12校（75.0%）で把握されている。

Q3 給食に関するデータのうち把握しているもの(MA)

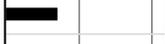
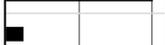
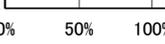
	全体	割合	
回答数(給食を実施している学校のみ)(N)	16	100.0%	
1 給食における市町村内産食材の使用割合	12	75.0%	
2 給食における都道府県内産食材の使用割合	15	93.8%	
3 給食における国産食材の使用割合	10	62.5%	
4 給食における郷土食の提供回数	12	75.0%	

0% 50% 100%

## iii) モデル事業以前の食に関する指導や活動における使用教材

モデル事業に取り組む以前の（昨年度までの）食に関する指導や活動において、どのような教材を使用していたかをみると、全校で「栄養教諭・学校栄養職員が作成したオリジナルの教材」を使用していたほか、「文部科学省が作成・配布している食育教材」（13校・76.5%）や「栄養士会等が作成・提供している食育教材」（12校・70.6%）、「民間企業・協会等が作成・提供している食育教材」（11校・64.7%）などが多く使用されている。

Q4 モデル事業以前の(昨年度までの)食に関する指導や活動において使用していた教材(MA)

	全体	割合	
回答数(N)	17	100.0%	
1 文部科学省が作成・配布している食育教材	13	76.5%	
2 農林水産省が作成・配布している食育教材	6	35.3%	
3 都道府県教育委員会が作成・配布している食育教材	6	35.3%	
4 栄養士会等が作成・提供している食育教材	12	70.6%	
5 民間企業・協会等が作成・提供している食育教材	11	64.7%	
6 栄養教諭・学校栄養職員が作成したオリジナルの教材	17	100.0%	
7 その他	2	11.8%	

0% 50% 100%

## ②モデル事業に関する取組内容等

### i)モデル事業における栄養教諭等としての役割や取組内容

モデル事業の取組において、栄養教諭等として具体的にどのようなことに取り組んで（又は取り組む予定で）いるかをみると、全ての栄養教諭等が「保護者を対象とした食育教育の企画・実施」に関わっている。また、「「つながる食育推進事業」全体の事業計画の検討・計画づくり」や「教科等での食に関する指導の実践」、「学級担任等と連携した食に関する指導の実施」、「郷土料理や地場産物を取り入れた給食の献立づくり」、「子供の食生活等の実態把握（アンケート等の作成・実施）」、「啓発パンフレットや配布物等の企画・作成」についても、ほぼ全てのモデル校で栄養教諭等による取組がみられる。

Q5 モデル事業における栄養教諭等としての具体的な取組内容(MA)

	全体	割合	
回答数(N)	17	100.0%	
1 「つながる食育推進事業」全体の事業計画の検討・計画づくり	16	94.1%	
2 教科等での食に関する指導の実施	16	94.1%	
3 学級担任等と連携した食に関する指導の実施	16	94.1%	
4 教科等で活用する食に関する指導教材の作成	11	64.7%	
5 給食の時間での食に関する指導の実施	15	88.2%	
6 郷土料理や地場産物を取り入れた給食の献立づくり	16	94.1%	
7 地場産物の調達や授業での連携のための地元生産者との連絡調整	12	70.6%	
8 食物アレルギーや肥満/痩身傾向のある子供や保護者等に対する個別指導の実施	12	70.6%	
9 保護者を対象とした食育教室(親子料理教室・給食試食会・講演会等)の企画・実施	17	100.0%	
10 教職員等を対象とした食育に係る教育内容や食事マナー等に関する指導	11	64.7%	
11 子供の食生活等の実態把握(アンケート等の作成・実施)	16	94.1%	
12 保護者の食育に関する意識等の実態把握(アンケート等の作成・実施)	14	82.4%	
13 啓発パンフレットや配布物等の企画・作成	16	94.1%	
14 校内や地域、生産者などを含む地域全体の食育推進体制の構築	12	70.6%	
15 その他	1	5.9%	

0% 50% 100%

また、栄養教諭としての取組のうち、これまでの食育に係る取組を踏まえ、モデル事業において特に力を入れて取り組んでいる（又は取り組もうと考えている）活動をみると、「学級担任等と連携した食に関する指導の実施」と「保護者を対象とした食育教室（親子料理教室・給食試食会・講演会等）の企画・実施」について半数近く（8校）の栄養教諭等が特に力を入れて取り組んでいる（取り組む予定）と回答している。

このほか、「教科等での食に関する指導の実施」、「地場産物の調達や授業での連携のための地元生産者との連絡調整」、「校内や地域、生産者などを含む地域全体の食育推進体制の構築」についても比較的多くの（6校）栄養教諭等が力を入れて取り組むと回答している。

Q6 Q5のうち特に力を入れて取り組んでいる（取り組む予定の）活動（MA3）



なお、特に力を入れる取組として最も多くから挙げられた上記の2項目について、その活動内容や特に力を入れる理由（自由記述）をみると、「学級担任等と連携した食に関する指導の実施」については、児童の実態を把握している学級担任と専門的な栄養教諭が連携した授業（チームティーチングなど）を行うことで、より指導が深まり、食育の効果が一層高まることが期待できるという趣旨の回答が多かった。

また、「保護者を対象とした食育教室（親子料理教室・給食試食会・講演会等）の企画・実施」に力を入れる理由としては、保護者の食に関する意識を高め、家庭の食生活改善につながることで、子供の望ましい食習慣の形成や食育の推進において重要という趣旨の回答が多くみられた。

### ③モデル事業における関係主体との連携に向けた配慮や工夫

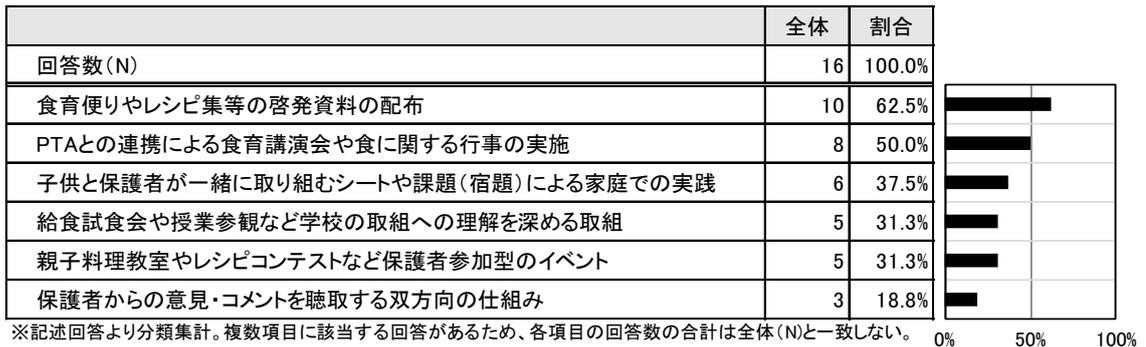
「つながる食育推進」というテーマを掲げた本モデル事業の取組において関係主体とのつながり・連携を図る上で、中心的な役割を担う栄養教諭等として具体的にどのような配慮や工夫をしているかを自由記述で把握した。

#### i) 保護者(家庭)とのつながり・連携における配慮や工夫点

保護者(家庭)とのつながり・連携に係る配慮については16校から回答があり、内容をみると、「食育便りやレシピ集等の啓発資料の配布」を行っているモデル校が10校(62.5%)と最も多く、次いで「PTAとの連携による食育講演会や食に関する行事の実施」が8校(50.0%)、「子供と保護者が一緒に取り組むシートや課題(宿題)による家庭での実践」が6校(37.5%)となっている。このほか「給食試食会や授業参観など学校の取組への理解を深める取組」や「親子料理教室やレシピコンテストなど保護者参加型のイベントの開催」も5校(31.3%)みられた。

なお、モデル校のうち11校では、これらの取組を複合的に実施することによって保護者との連携を図っている。

Q7 (1) 保護者(家庭)とのつながり・連携における配慮や工夫点

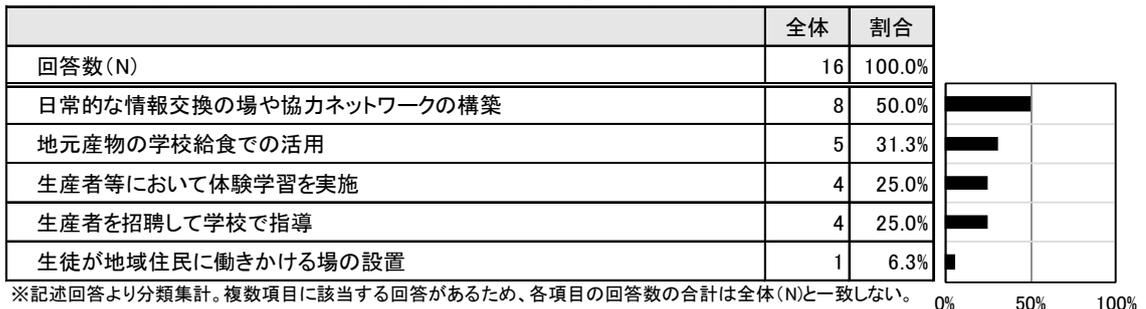


#### ii) 地域の生産者や地域組織とのつながり・連携における配慮や工夫点

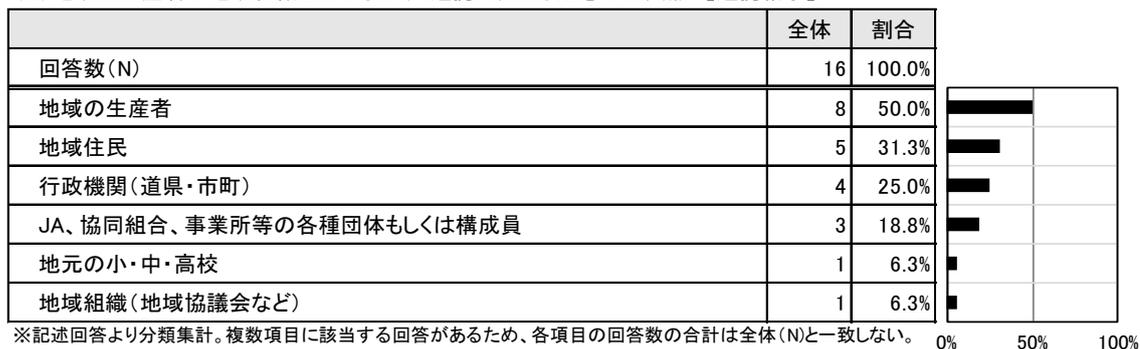
地域の生産者や地域組織との連携に関しては16校から回答があり、「日常的な情報交換の場や協力ネットワークの構築」に配慮しているモデル校が8校(50.0%)と最も多く、次いで「地元産物の学校給食での活用」が5校(31.3%)、「生産者等において体験学習を実施」、「生産者を招聘して学校で指導」がともに4校(25.0%)となっている。

また、連携の相手としては、「地域の生産者」が8校(50.0%)と最も多く、次いで「地域住民」が5校(31.3%)、「道県や市町等の行政機関」が4校(25.0%)となっている。

Q7 (2) 地域の生産者や地域組織とのつながり・連携における配慮や工夫点【連携内容】



Q7 (2) 地域の生産者や地域組織とのつながり・連携における配慮や工夫点 【連携相手】

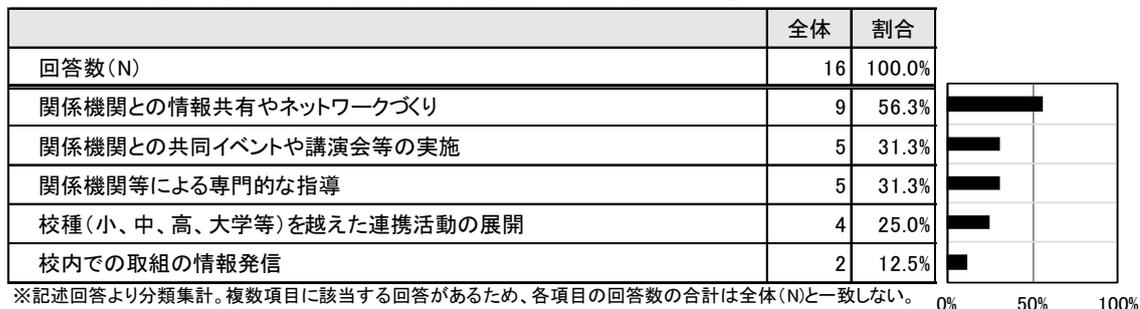


iii) 関係機関・団体等とのつながり・連携における配慮や工夫点

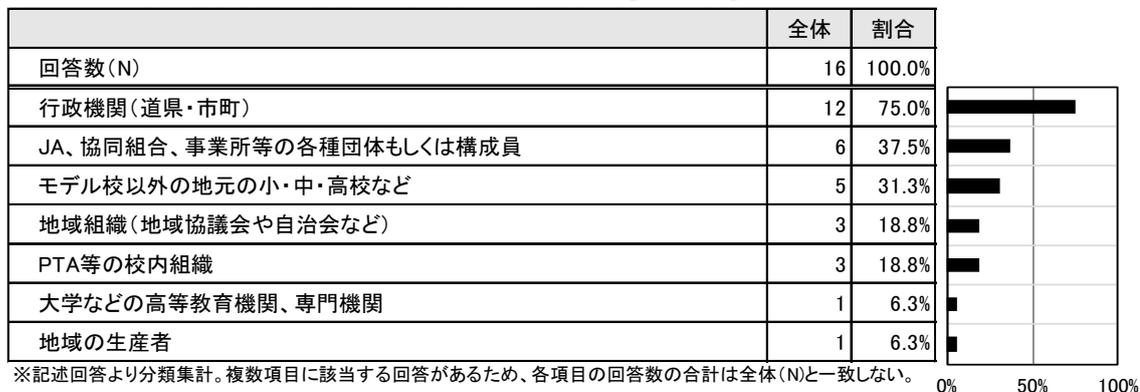
関係機関や地域の各種団体とのつながりや連携に関しては 16 校から回答があり、「関係機関との情報共有やネットワークづくり」に配慮しているモデル校が 9 校 (56.3%) と最も多く、次いで「関係機関との共同イベントや講演会等の実施」、「関係機関等による専門的な指導」がともに 5 校 (31.3%)、「校種 (小、中、高、大学等) を越えた連携活動の展開」が 4 校 (25.0%) の順となっており、複数の内容を挙げたモデル校も 9 校みられる。

また、連携の相手としては、「道県や市町等の行政機関」が 12 校 (75.0%) と最も多く、次いで「JA や協同組合、地域の事業所等の各種団体もしくは構成員」が 6 校 (37.5%)、「モデル校以外の地元の小・中・高校など」が 5 校 (31.3%) となっており、これらの複数の機関や団体と連携しているモデル校も 11 校みられる。

Q7 (3) 関係機関・団体等とのつながり・連携における配慮や工夫点 【連携内容】



Q7 (3) 関係機関・団体等とのつながり・連携における配慮や工夫点 【連携相手】



#### iv) その他、取組全体を通じた配慮や工夫点

取組全体を通じて配慮している点については10校から回答があった。

具体的には、教職員同士のつながりなど、「学校内における教職員間の連携や給食センター等との連携の強化」に配慮しているモデル校が4校(40.0%)、「家庭や地域、生産者など関係者間のつながりの拡大に配慮」しているモデル校が3校(30.0%)、「取組の継続性に配慮」や「地域への情報発信や食育の啓発に配慮」、「特に子供の食に係る意識や生活習慣の改善に配慮」しているモデル校がそれぞれ2校(20.0%)となっている。

Q7 (4) その他、取組全体を通じた配慮や工夫点

	全体	割合
回答数(N)	10	100.0%
学校内における教職員間の連携や給食センター等との連携を強化	4	40.0%
家庭や地域、生産者など関係者間のつながりの拡大に配慮	3	30.0%
取組の継続性に配慮	2	20.0%
地域への情報発信や食育の啓発に配慮	2	20.0%
特に子どもの食に係る意識や生活習慣の改善に配慮	2	20.0%
専門機関等との連携強化	1	10.0%

※記述回答より分類集計。複数項目に該当する回答があるため、各項目の回答数の合計は全体(N)と一致しない。

0% 50%

#### ④10月までの取組で児童生徒や保護者に好評だった活動

第1回アンケートの実施時点(平成29年10月)までに行った取組の中で、特に児童生徒や保護者等に好評だった活動について、自由記述で把握した。

##### i) 児童・生徒に好評だった活動

各モデル校の栄養教諭等の立場からみて、平成29年10月までに取り組んだ活動の中で児童や生徒に好評だった活動内容として、15校から具体的な活動内容についての回答があった。

回答内容をみると、生産者や生産団体、専門家等の協力を得て実施した「栽培・調理などの体験学習」を挙げたモデル校が8校(53.3%)と最も多く、次いで「学校給食における「〇〇の日」などの設定」や「校種を越えた交流活動」がそれぞれ3校から挙げられている。

Q8 (1) 児童生徒に好評だった活動

	全体	割合
回答数(N)	15	100.0%
栽培・調理などの体験学習	8	53.3%
学校給食における「〇〇の日」などの設定	3	20.0%
校種を越えた交流活動	3	20.0%
児童生徒による食育のPR活動	2	13.3%
料理コンテスト等の実施や評価・表彰	2	13.3%
外部の専門家等との交流や講座の開催	2	13.3%

※記述回答より分類集計。複数項目に該当する回答があるため、各項目の回答数の合計は全体(N)と一致しない。

0% 50% 100%

## ii) 保護者に好評だった活動

各モデル校の栄養教諭等の立場からみて、平成29年10月までに取り組んだ活動の中で保護者に好評だった活動内容として、15校から具体的な活動内容についての回答があった。

回答内容をみると、保護者を対象とした「給食試食会」を挙げたモデル校が8校(53.3%)と最も多く、次いで「親子体験学習」が5校(33.3%)、「食育に関する講演会の開催」が3校(20.0%)となっている。

Q8 (2) 保護者に好評だった活動

	全体	割合	
回答数(N)	15	100.0%	
給食試食会	8	53.3%	
親子体験学習	5	33.3%	
食育に関する講演会の開催	3	20.0%	
子どもの体験学習	2	13.3%	
地域での食育に係る交流会の開催	1	6.7%	
食に係るキャンペーンの実施	1	6.7%	

※記述回答より分類集計。複数項目に該当する回答があるため、各項目の回答数の合計は全体(N)と一致しない。 0% 50% 100%

## ⑤これまでの取組で児童生徒や保護者、地域等にみられ始めている意識や行動等の変化

第1回アンケートの実施時点(平成29年10月)までに行った取組を通じて、すでに児童生徒や保護者、地域等に何らかの意識や行動等の変化がみられ始めている場合、その取組内容とどのような変化がみられているかを自由記述で把握した。

### i) 児童・生徒に意識や行動の変化がみられた活動とその変化の内容

13校から寄せられた回答をみると、児童生徒の意識や行動の変化に寄与した取組内容としては、「栽培・調理などの体験学習」の取組を通じて児童生徒の意識や行動に変化がみられたとするモデル校が5校と最も多く、これに伴い地産地消に対する意識の醸成をはじめ、児童生徒の食に関する意識醸成の幅広い側面で変化がみられている。

また、「給食におけるきめ細かな配慮や指導」も4校あり、これにより特に児童生徒の「食に対する意識(好き嫌いの改善)の醸成」が図られたとするモデル校が3校あった。

さらに、「学校給食における「〇〇の日」等の設定」を挙げた2校は、ともに児童生徒の「食に関する意識(地産地消)の醸成」の側面で変化がみられたとしている。

Q9 (1) 児童生徒について

これまでの取組の中で児童生徒の意識や行動等に変化がみられた具体的内容			意識・行動等の変化の内容(複数回答)					
			食に関する知識の習得	食に関する意識(地産地消)の醸成	食に対する意識(好き嫌いの改善)の醸成	食に関する意識(バランスの配慮)の醸成	食に関する意識(感謝の気持ち)の醸成	家庭における実践に展開
	回答数		6校	6校	4校	3校	3校	2校
取組内容(複数回答)	栽培・調理などの体験学習	5校	1	2	1	2	1	1
	給食におけるきめ細かな配慮や指導	4校	2		3	2		
	学校給食における「〇〇の日」等の設定	2校	1	2				1
	生産者等との交流や講座・授業の実施	2校	1	1			1	
	特別活動における食育に係る指導	1校	1					
	校種を越えた連携活動	1校		1				

## ii) 保護者に意識や行動の変化がみられた活動とその変化の内容

12校から寄せられた回答をみると、保護者の意識や行動の変化に寄与した取組内容としては、「食育に関する講演会の開催」と「広報やPR活動による取組内容の周知」がそれぞれ4校と最も多くから挙げられており、特に「広報やPR活動による取組の周知」を行ったモデル校では、その結果、「食に関する意識の醸成」や「学校での取組に関する理解の深化」などの側面で保護者の意識に変化がみられたとしているモデル校が多い。

また、「食育に関する講演会の開催」を行ったモデル校では「家庭における取組の普及」や保護者の「食に関する知識の啓発」等の面で変化がみられたとするモデル校が複数みられた。

さらに、「料理コンテストや料理教室の開催」を挙げた2校は、その取組を通じて「学校での取組に関する理解の深化」が図られたとしており、「親子や家庭における体験活動」を挙げた2校は、保護者の「食に関する知識の啓発」の側面で効果がみられたとしている。

Q9 (2) 保護者について

これまでの取組の中で 保護者の意識や行動等に変化が みられた具体的内容		意識・行動等の変化の内容(複数回答)					
		食に関する 意識の醸成	家庭における 取組の普及	学校での取組に 関する理解の 深化	食に関する知識 の啓発	子どもの食に係 る意識や行動へ の関心の高まり	健康に関する 意識啓発や実践
回答数		7校	5校	4校	3校	1校	1校
取組 内容 (複数 回答)	食育に関する講演会の開催	4校	2	2	1	2	1
	広報やPR活動による取組内容の周知	4校	3	1	2	1	
	料理コンテストや料理教室の開催	2校	1	1	2		
	親子や家庭における体験活動	2校	2		1	2	
	学校と家庭との双方向の情報交換	2校	1	1			1
	給食試食会の開催	1校	1		1		
	児童・生徒の個別相談指導	1校		1			

## iii) 他の教職員や地域、関係機関等に意識や行動の変化がみられた活動とその変化の内容

13校から回答があった中で、他の教職員や地域、関係機関等の意識や行動の変化に寄与した取組内容として最も多かったのは「食育に関する講演会や校内研修会の開催」(5校)であり、その結果4校では「食育に係る意識醸成や理解の深化」がみられたとしている。

また、「情報交換など教職員や関係機関との連携の強化」を挙げた4校のうち2校は、それにより「地域団体との連携強化」が図られたとしている。

このほか、「食育に関する広報やPR活動の展開」を挙げた3校のうち2校では、「学校における取組の地域等への啓発」につながったとしている。

Q9 (3) 他の教職員や地域、関係機関等について

これまでの取組の中で 他の教職員や地域、関係機関等の意識や 行動等に変化がみられた具体的内容		意識・行動等の変化の内容(複数回答)					
		食育に係る意識 醸成や理解の 深化	指導内容の改善 や高度化	地域団体等との 連携強化	学校における取 組の地域等への 啓発	学校内(教職員 間)での連携促 進	地産地消の推進
回答数		7校	4校	4校	3校	1校	1校
取組 内容 (複数 回答)	食育に係る講演会や校内研修会等の開催	5校	4	2	1	1	
	情報交換など教職員や関係機関との連携体制の強化	4校	1	1	2	1	1
	食育に関する広報やPR活動の展開	3校	1		1	2	
	生産農家等からの指導	1校		1			
	校種を越えた交流・連携活動	1校	1		1		
	商品開発への協力	1校			1		

### (3) 第2回アンケート調査の結果の整理

#### ①児童生徒に好評だった取組と得られた成果・効果

本年度のモデル事業において児童生徒に対して実施した取組のうち、特に好評だった活動や成果・効果が得られた活動について栄養教諭等に聞いたところ、80件の具体的な取組と成果が挙げられた。

取組の内容を分類すると、「外部の専門家や生産者等との交流や講座の開催」が33件(41.3%)と最も多く、次いで「栽培・調理などの体験学習」(29件、36.3%)、「親子で参加するイベントや家庭で実践する課題の実施」(18件、22.5%)などが比較的多く取り組まれている。

Q1 児童生徒に好評だった活動や成果・効果が得られた活動

	全体	割合	
回答件数(N)	80	100.0%	
1 栽培・調理などの体験学習	29	36.3%	
2 学校給食における「〇〇の日」などの設定	15	18.8%	
3 校種を越えた交流活動	10	12.5%	
4 児童生徒による食育のPR活動	13	16.3%	
5 料理コンテスト等の実施や評価・表彰	4	5.0%	
6 外部の専門家や生産者等との交流や講座の開催	33	41.3%	
7 親子で参加するイベントや家庭で実践する課題の実施	18	22.5%	
8 その他	23	28.8%	

※複数回答(複数の項目に該当する取組がある)のため、各項目の回答数の合計は全体(N)と一致しない。

児童生徒に好評だった取組について、どのような活動が組み合わせられていたかをみると、「外部の専門家や生産者等」の協力により「栽培や調理などの体験活動」を行った取組が20件と最も多くみられた。また「栽培や調理などの体験活動」については、他校とも連携し「校種を越えた」活動として実施した例(7件)や、親子調理実習など「親子で参加するイベント」等として実施した例(11件)も多くみられた。

さらに、「親子で参加するイベント」として「外部の専門家による講座」を開催している例も12件と多かった。

Q1 児童生徒に好評だった活動や成果・効果が得られた活動 (取組内容の組み合わせ集計)

	全体	栽培・調理などの体験学習	学校給食における「〇〇の日」などの設定	校種を越えた交流活動	児童生徒による食育のPR活動	料理コンテスト等の実施や評価・表彰	外部の専門家や生産者等との交流や講座の開催	親子で参加するイベントや家庭で実践する課題の実施
回答件数(N)	80	29	15	10	13	4	33	18
1 栽培・調理などの体験学習	29	29	1	7	2	2	20	11
2 学校給食における「〇〇の日」などの設定	15	1	15	2	3	0	1	2
3 校種を越えた交流活動	10	7	2	10	0	2	4	1
4 児童生徒による食育のPR活動	13	2	3	0	13	0	1	0
5 料理コンテスト等の実施や評価・表彰	4	2	0	2	0	4	0	1
6 外部の専門家や生産者等との交流や講座の開催	33	20	1	4	1	0	33	12
7 親子で参加するイベントや家庭で実践する課題の実施	18	11	2	1	0	1	12	18
8 その他	23	4	1	1	0	0	9	7



## ②保護者に好評だった取組と得られた成果・効果

本年度のモデル事業において保護者を対象に、あるいは保護者も参加する活動として実施した取組のうち、特に好評だった活動や成果・効果が得られた活動として、65件の具体的な取組と成果が挙げられた。

取組の内容を分類すると、「広報やPR活動による学校での取組内容の周知」が20件(30.8%)と最も多く、次いで「学校と家庭との双方向の情報交換」(19件、29.2%)、「食に関する豆知識やレシピ等の情報提供」(18件、27.7%)などが比較的多く取り組まれている。

Q2 保護者に好評だった活動や成果・効果が得られた活動

	全体	割合	
回答件数(N)	65	100.0%	
1 食育に関する講演会の開催	16	24.6%	
2 広報やPR活動による学校での取組内容の周知	20	30.8%	
3 親子料理コンテストや料理教室の開催	13	20.0%	
4 弁当づくりや野菜栽培など家庭における実践活動	5	7.7%	
5 学校と家庭との双方向の情報交換	19	29.2%	
6 給食試食会・学校での食事会等の開催	16	24.6%	
7 授業参観日における食育の取組の実施	14	21.5%	
8 栄養教諭等による個別的な相談指導	3	4.6%	
9 食に関する豆知識やレシピ等の情報提供	18	27.7%	
10 親子で参加する体験学習の実施	14	21.5%	
11 その他	7	10.8%	

※複数回答(複数の項目に該当する取組がある)のため、各項目の回答数の合計は全体(N)と一致しない。

0% 20% 40%

保護者に好評だった取組について、どのような活動が組み合わせられていたかをみると、「食に関する豆知識やレシピ等の情報提供」を通じて「学校での取組内容の周知」を図っている例が14件と最も多くみられた。また、広報や情報提供は、単に情報を提供するだけでなく、「保護者との双方向の情報交換」の機会として取り組んでいる例も比較的多かった。

Q2 保護者に好評だった活動や成果・効果が得られた活動 (取組内容の組み合わせ集計)

	全体	食育に関する講演会の開催	広報やPR活動による学校での取組内容の周知	親子料理コンテストや料理教室の開催	弁当づくりや野菜栽培など家庭における実践活動	学校と家庭との双方向の情報交換	給食試食会・学校での食事会等の開催	授業参観日における食育の取組の実施	栄養教諭等による個別的な相談指導	食に関する豆知識やレシピ等の情報提供	親子で参加する体験学習の実施
回答件数(N)	65	16	20	13	5	19	16	14	3	18	14
1 食育に関する講演会の開催	16		2	1	1	3	1	3	0	2	2
2 広報やPR活動による学校での取組内容の周知	20	2		6	2	9	6	7	1	14	4
3 親子料理コンテストや料理教室の開催	13	1	6		1	4	3	2	1	6	6
4 弁当づくりや野菜栽培など家庭における実践活動	5	1	2	1		2	1	0	0	2	1
5 学校と家庭との双方向の情報交換	19	3	9	4	2		5	7	3	9	4
6 給食試食会・学校での食事会等の開催	16	1	6	3	1	5		3	1	6	4
7 授業参観日における食育の取組の実施	14	3	7	2	0	7	3		1	5	3
8 栄養教諭等による個別的な相談指導	3	0	1	1	0	3	1	1		2	0
9 食に関する豆知識やレシピ等の情報提供	18	2	14	6	2	9	6	5	2		3
10 親子で参加する体験学習の実施	14	2	4	6	1	4	4	3	0	3	
11 その他	7	1	5	2	0	4	2	3	2	5	1

これらの活動を通じて得られた成果・効果についての記述内容をみると、保護者の「食育に対する意識が醸成された」という成果が65件の取組中45件と多くから挙げられた。

また、「家庭における実践の促進やきっかけづくり」につながったという成果も比較的多くの取組でみられている。

Q2 保護者に好評だった活動を通して得られた成果・効果

	全体	割合
回答件数(N)	65	100.0%
1 食育に対する意識の醸成	45	69.2%
2 家庭における実践の促進やきっかけづくり	23	35.4%
3 食文化への理解促進・継承	7	10.8%
4 家庭における地場産物の活用促進	3	4.6%
5 親子のコミュニケーション向上	3	4.6%
6 子供の肥満等の改善	2	3.1%
7 地域への情報発信や啓発等	2	3.1%

これらの成果・効果を取組内容とクロスして分析すると、「食育に関する講演会の開催」や「学校と家庭との双方向の情報交換」が「食育に対する意識の醸成」につながったケースが多くみられる。また、「広報やPR活動による学校での取組内容の周知」、「親子料理コンテストや料理教室の開催」、「食に関する豆知識やレシピ集等の情報提供」といった取組の多くは「家庭における実践の促進やきっかけづくり」につながっている。

Q2 保護者に好評だった活動や成果・効果が得られた活動と得られた成果・効果 (記述内容から類型化)	回答数	得られた成果・効果						
		食育に対する意識の醸成	家庭における実践の促進やきっかけづくり	食文化への理解促進・継承	家庭における地場産物の活用促進	親子のコミュニケーション向上	子供の肥満等の改善	地域への情報発信や啓発等
食育に関する講演会の開催	16	14	7	1	0	0	0	0
広報やPR活動による学校での取組内容の周知	20	12	10	2	0	2	0	1
親子料理コンテストや料理教室の開催	13	7	8	2	2	1	0	0
弁当づくりや野菜栽培など家庭における実践活動	5	3	2	0	0	1	0	1
学校と家庭との双方向の情報交換	19	14	6	0	0	1	2	0
給食試食会・学校での食事会等の開催	16	12	3	1	1	0	0	1
授業参観日における食育の取組の実施	14	13	4	0	0	0	0	0
栄養教諭等による個別的な相談指導	3	2	0	0	0	0	2	0
食に関する豆知識やレシピ等の情報提供	18	10	8	1	0	1	1	1
親子で参加する体験学習の実施	14	9	5	6	1	0	0	0
その他	7	4	4	0	0	0	1	0

### ③他の教職員に好評だった取組と得られた成果・効果

本年度のモデル事業において、栄養教諭が他の教職員との連携のもとで実施した取組のうち、特に他の教職員に好評だった活動や成果・効果が得られた活動としては、29件の具体的な事例が挙げられた。

取組の内容を分類すると、「情報交換など教職員との連携体制の強化」が19件（65.5%）と最も多く、次いで「食育に係る講演会や校内研修会等の開催」（10件、34.5%）が比較的多く取り組まれている。

Q3 他の教員に好評だった活動や成果・効果が得られた活動

	全体	割合	
回答件数(N)	29	100.0%	
1 食育に係る講演会や校内研修会等の開催	10	34.5%	
2 関係教職員によるワーキングチーム等の設置	7	24.1%	
3 情報交換など教職員との連携体制の強化	19	65.5%	
4 校種を越えた交流・連携活動	6	20.7%	
5 その他	9	31.0%	

※複数回答(複数の項目に該当する取組がある)のため、各項目の回答数の合計は全体(N)と一致しない。

他の教職員に好評だった取組について、どのような活動が組み合わせられていたかをみると、「関係教職員によるワーキングチーム等の設置」は「情報交換など教職員との連携体制の強化」とセットで取り組まれているケースがほとんどである。

Q3 他の教員に好評だった活動や成果・効果が得られた活動（取組内容の組み合わせ集計）

	全体	食育に係る講演会や校内研修会等の開催	関係教職員によるワーキングチーム等の設置	情報交換など教職員との連携体制の強化	校種を越えた交流・連携活動
回答件数(N)	29	10	7	19	6
1 食育に係る講演会や校内研修会等の開催	10	10	2	6	3
2 関係教職員によるワーキングチーム等の設置	7	2	7	6	0
3 情報交換など教職員との連携体制の強化	19	6	6	19	2
4 校種を越えた交流・連携活動	6	3	0	2	6
5 その他	9	1	2	5	1

これらの活動を通じて得られた成果・効果についての記述内容をみると、他の教職員の「食育に係る理解の促進、意識醸成」が図られた、あるいは「食育に係る指導力が向上した」という成果が多く挙げられている。

Q3 他の教員に好評だった活動を通して得られた成果・効果

	全体	割合	
回答件数(N)	29	100.0%	
1 食育に係る理解の促進、意識醸成	18	62.1%	
2 食育に係る指導力の向上	16	55.2%	
3 児童の意識や行動の変容	7	24.1%	
4 校内での新たな取組の実施	2	6.9%	
5 給食残食率の低下	2	6.9%	

これらの成果・効果を取組内容とクロスして分析すると、「食育に係る講演会や校内研修会等の開催」や「情報交換など教職員との連携体制の強化」が他の教職員の「食育に係る理解の促進、意識醸成」、あるいは「食育に係る指導力の向上」につながったという回答が多くみられる。

Q3 他の教員に好評だった活動や成果・効果が得られた活動と得られた成果・効果 (記述内容から類型化)		得られた成果・効果				
		食育に係る理解の促進、意識醸成	食育に係る指導力の向上	児童の意識や行動の変容	校内での新たな取組の実施	給食残食率の低下
	回答数	18	16	7	2	2
取組内容 (複数回答)	食育に係る講演会や校内研修会等の開催	10	8	7	1	0
	関係教職員によるワーキングチーム等の設置	7	4	4	2	0
	情報交換など教職員との連携体制の強化	19	12	13	6	2
	校種を越えた交流・連携活動	6	4	2	2	0
	その他	9	5	5	2	2

#### ④地域住民や生産者、関係機関等に好評だった取組と得られた成果・効果

本年度のモデル事業において、栄養教諭が地域住民や地元の生産者、関係機関との連携のもとで実施した取組のうち、特にこれらの関係者に好評だった活動や成果・効果が得られた活動として、47件の具体的な取組と成果が挙げられた。

取組の内容を分類すると、「児童生徒と食を通じて触れ合う活動の実施」が26件(55.3%)と最も多く、次いで「食育に関する広報やPR活動の展開」(23件、48.9%)や「情報交換など関係機関との連携体制の強化」(20件、42.6%)などが比較的多く取り組まれている。

#### Q4 地域住民や関係者に好評だった活動や成果・効果が得られた活動

	全体	割合
回答件数(N)	47	100.0%
1 食育に関する広報やPR活動の展開	23	48.9%
2 生産農家等による指導・授業の実施	17	36.2%
3 情報交換など関係機関との連携体制の強化	20	42.6%
4 校種を越えた交流・連携活動	9	19.1%
5 児童生徒と食を通じて触れ合う活動の実施	26	55.3%
6 その他	6	12.8%

※複数回答(複数の項目に該当する取組がある)のため、各項目の回答数の合計は全体(N)と一致しない。

地域住民や関係者に好評だった取組について、どのような活動が組み合わせられていたかをみると、「児童生徒と食を通じて触れ合う活動」の半数以上は「生産農家等による指導・授業の実施」という形で実施されている。

Q4 地域住民や関係者に好評だった活動や成果・効果が得られた活動（取組内容の組み合わせ集計）

	全体	食育に関する 広報やPR活動 の展開	生産農家等 による指導・授業 の実施	情報交換など 関係機関との 連携体制の 強化	校種を越えた 交流・連携 活動	児童生徒と 食を通じて 触れ合う活動 の実施
回答件数(N)	47	23	17	20	9	26
1 食育に関する広報やPR活動の展開	23		7	11	6	11
2 生産農家等による指導・授業の実施	17	7		3	2	14
3 情報交換など関係機関との連携体制の強化	20	11	3		6	8
4 校種を越えた交流・連携活動	9	6	2	6		4
5 児童生徒と食を通じて触れ合う活動の実施	26	11	14	8	4	
6 その他	6	5	2	5	1	2

これらの活動を通じて得られた成果・効果についての記述内容をみると、地域住民や関係者の協力を得て実施した取組を通じて「子供や保護者の食育に係る意識・行動が変わった」という成果が最も多く挙げられている。また、「地域住民の食育に対する意識啓発につながった」という声も比較的多かった。

Q4 地域住民や関係者に好評だった活動を通して得られた成果・効果

	全体	割合	
回答件数(N)	47	100.0%	
1 子供や保護者の食育に係る意識・行動の改善	23	48.9%	
2 地域住民の食育に対する意識啓発	14	29.8%	
3 子供と地域住民との交流促進	11	23.4%	
4 地域の関係者との協力関係の構築	10	21.3%	
5 地域の関係者の取組に対する理解促進や生産意欲の向上	8	17.0%	
6 地域経済等の活性化	2	4.3%	
7 地域住民の健康維持・増進	1	2.1%	

これらの成果・効果を取組内容とクロスして分析すると、地域住民や関係者が「児童生徒と食を通じて触れ合う活動」は「子供や保護者の食育に係る意識・行動の変容」につながったというケースが多くみられる。

Q4 地域住民や関係者に好評だった活動や成果・効果が得られた活動と得られた成果・効果（記述内容から類型化）	回答数	得られた成果・効果						
		子供や保護者の食育に係る意識・行動の変容	地域住民の食育に対する意識啓発	子供と地域住民との交流促進	地域の関係者との協力関係の構築	地域の関係者の取組に対する理解促進や生産意欲の向上	地域経済等の活性化	地域住民の健康維持・増進
食育に関する広報やPR活動の展開	23	12	11	3	4	2	1	0
生産農家等による指導・授業の実施	17	10	1	5	6	4	0	0
情報交換など関係機関との連携体制の強化	20	8	7	2	4	3	2	1
校種を越えた交流・連携活動	9	4	5	2	0	2	0	0
児童生徒と食を通じて触れ合う活動の実施	26	14	4	10	7	5	1	0
その他	6	2	3	0	2	0	0	0

## ⑤独自評価指標からみた取組の成果・効果

モデル事業の取組を通じた成果・効果を検証する上で、全モデル校共通で実施する児童生徒・保護者アンケート調査（第4章参照）以外に、各モデル校が独自に設定している評価指標について調査し、取組前後の指標の変化を把握・整理した。

その結果、全モデル校共通の事前・事後アンケート調査で把握する食に関する意識や食習慣とは異なる視点で児童生徒の食に対する意識や関心の変化を把握する指標を設定していた学校が8校と最も多かった。また、肥満・痩身傾向児の出現率や児童生徒の体力や生活リズムなどに関する具体的な数値の測定などを通じて事業成果を検証しようという学校も比較的多くみられた。

さらに、児童生徒だけでなく保護者の意識や関心に変化がみられるか把握する指標や、食育の取組が家庭に及んでいるかどうかを把握するための指標を設定しているモデル校も5～6校あった。

そして、これらの独自指標について、モデル事業の実施前と実施後のデータを比べると、多くの項目で成果・効果がみられており、特に児童生徒の食に関する意識・関心の高まりや肥満・痩身傾向児の出現率の低下、生活リズムの改善がみられたほか、家庭での実践的な取組の展開などで成果がみられた指標も多くなっている。

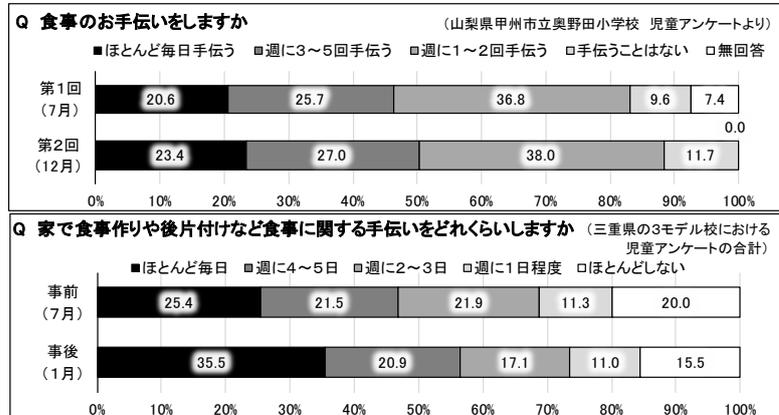
Q5 本事業において各モデル校が設定した独自指標

評価対象	評価項目	指標を設定したモデル校の数	設定された指標数	各指標による成果・効果の検証		設定された指標の一例
				成果・効果がみられた	成果みられず・変化なし	
児童生徒	朝食摂取状況	3	3	2	1	朝食欠食率
	共食状況	2	2	2	0	家族と一緒に食事をした回数
	栄養バランスを考えた食事	2	5	5	0	給食で苦手なものを頑張って食べる児童の割合
	咀嚼力	1	1	1	0	よく噛んで食べる児童の割合
	食事マナー	2	2	2	0	食事の時に挨拶をする児童の割合
	伝統的な食文化や行事食	2	3	3	0	地域の特産物や郷土料理の認知度
	衛生的な行動	1	1	1	0	衛生管理を理解し実践している児童の割合
	食に対する意識・関心	8	15	13	2	食に関する授業内容について家庭で話をする児童の割合
	肥満・痩身	5	5	5	0	肥満傾向児（肥満度20%以上）出現率
	体力・健康・生活リズム	7	14	10	4	新体力テスト総合評価A・B・Cの割合、排便率、起床・就寝時刻
保護者	保護者の食育に対する関心	5	7	5	2	食事の内容を意識し工夫する家庭の割合
	家庭での食育の実践	6	11	10	1	毎食、野菜の入った料理を出す家庭の割合
教職員	教職員の意識	2	6	5	1	食に関する取組において栄養教諭との関わりがある教職員の割合
給食	給食での地場産物活用率	2	2	0	2	給食での地場産物活用率
	給食残食率	1	1	1	0	学校給食の残食量

### 独自指標例(1) 家で食事の手伝いをする子供、子供に食事の手伝いをさせる家庭の増加

甲州市立奥野田小学校や名張市の3モデル校では、学校で調理体験を行うだけでなく、自分で作った弁当を持参する「お弁当の日」を設定したり、長期休みに家庭で弁当づくりに取り組むなど、家庭において子供が食事づくりを実践する取組を行っており、取組前よりも取組後の方が家庭で食事に関する手伝いをする児童の割合が高くなった。

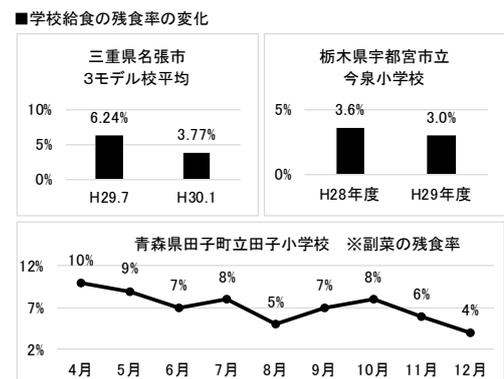
学校と家庭とのつながりを重視した取組を通じて、家庭における食に関する理解が深まり、望ましい食生活が実践されていることがうかがえる。



### 独自指標例(2) 学校給食の残食率の低下

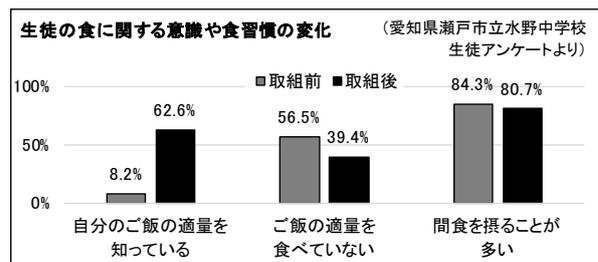
給食の残食率を独自指標としてあらかじめ設定していたモデル校以外にも、様々な取組を通じて子供の食に関する意識が高まった結果、学校給食の残食量が減ったという報告も複数のモデル校でみられた。

このように残食率に低下がみられたモデル校では、例えば地元高校との農業体験交流や、地元農家の協力による稲作体験、児童(給食委員)による野菜摂取の呼びかけなど、様々な手法によって学校給食で使われている食材に対する児童の関心を高め、感謝の心を育成する工夫をしていたという共通点がみられた。



### 独自指標例(3) 成長期に必要な食事に対する意識の高まり

中学生や高校生は特に女子を中心に痩身願望が強くなるなど、思春期ならではの食に関する課題がみられることから、一人ひとりの成長に合わせた主食(ご飯)の量についての適量指導を行ったり、成長期に必要な栄養素の摂取量と各自の体組成データを組み合わせた指導を行うなど、データを示して理解を促す取組が多くみられた。個々の発育状況に即した具体的な指導を通じて、成長期に必要な食事に対する意識や望ましい食習慣に対する理解が深まっている。



## ⑥モデル事業において栄養教諭として取り組んだこと

約半年間のモデル事業において栄養教諭等が取り組んだ具体的な内容をみると、「モデル事業全体の事業計画の検討・計画づくり」、「郷土料理や地場産物を取り入れた給食の献立づくり」、「保護者を対象とした食育教育の企画・実施」及び「啓発パンフレットや配布物等の企画・作成」には全てのモデル校において栄養教諭等が関わっていた。このほか、「学級担任等と連携した食に関する指導の実施」や「子供の食生活等の実態把握」についてもほぼ全てのモデル校で栄養教諭等による取組がみられた。

なお、第1回アンケート調査（平成29年10月実施）時点で取組予定とされていた内容と比較すると、ほぼ全ての内容について当初予定通り、あるいは予定以上の取組がみられており、特に「教科等で活用する食に関する指導教材の作成」は当初予定していた以上のモデル校で栄養教諭等の関わりがみられた。

Q6 本事業において栄養教諭として取り組んだこと(MA)



## ⑦モデル事業の取組を通じた成果や課題

### i) 本事業の取組を通じて得られた成果や手応え

栄養教諭等としてモデル事業に中心的に関わる中で、学校を中核とした食育の推進に向けてどのような成果や手ごたえを感じたかについて、自由記述による回答をみると、「児童生徒の食に対する意識の向上が図られた」という点が最も多くから挙げられたほか、「児童生徒の食に関する行動の変化・改善がみられた」、「保護者の食育に係る意識の向上や実践がみられた」といった成果も比較的多くの栄養教諭等から挙げられている。

Q7(1) 本事業の取組を通じて得られた成果や手応え

	全体	割合	
回答数(N)	17	100.0%	
児童生徒の食に対する意識の向上	9	52.9%	
児童生徒の食に関する行動の変化・改善	7	41.2%	
保護者の食育に係る意識の向上や実践	7	41.2%	
食育に係る教職員の意識醸成や指導力向上	6	35.3%	
地域や給食関係者とのつながり強化	1	5.9%	
地域への啓発・普及促進	1	5.9%	

※記述回答より分類集計。複数項目に該当する回答があるため、各項目の回答数の合計は全体(N)と一致しない。

学校名	Q7(1) 本事業の取組を通じて得られた成果や手応え
北海道 七飯町立 七重小学校	今回の事業に関わってくださったすべての方に、食育や学校給食についてこれまで以上に心をもち、意識を高めてもらえた。七重小の先生方に、食育の大切さや効果などを感じてもらえたことは、今後、食育を推進していく上でも大きな成果と考える。また、保護者や地域の方々を巻き込んだ活動を展開することで、より大きな成果につながることも実感した。子供たちの行動変容を図るためには、家庭との連携が不可欠なので、子供を通して家庭とつながることを今後も継続し、広げていきたいと考えている。
青森県 田子町立 田子小学校	学校を中核とした食育の推進に向け、学校で意識的に取り組んだ内容については、効果が見られている部分があり、「子供たちの活動を通して家庭や地域へつながっていくこと」に重点をおいて取り組んだ効果ではないかと考えている。
山形県 川西町立 小松小学校	それぞれの事業に各学年担任や保護者が協力的かつ意欲的に取り組み、内容を充実させることができたこと。
福島県 三春町立 三春中学校	生徒が学び、保護者に伝え、望ましい食習慣につなげる取組を通し、保護者がバランスのよい食事について、生徒と一緒に考える機会をもつことができたこと。
福島県 新地町立 新地小学校	①肥満傾向児出現率の低下(15.6%から12%に減少し目標値を達成):養護教諭・体育部との連携 ②健康個別指導「すくすく教室」の実施により、実施児童全てが肥満度の改善:養護教諭・家庭との連携 ③本校のテーマ「新地の子どもはさ・わ・や・か・だ!」の理解度がアップ。また昨年度と比較すると和食76%(+24ポイント)と海藻71%(+7ポイント)が好きの割合が特に増加した。(他校と比較すると本校が優位) ④食生活に関する意識の向上(8割以上の項目でアップ) ⑤健康な体をつくるために「さわやかだ」が大切だという意識が高まり、実践化につながっている。
栃木県 宇都宮市立 今泉小学校	給食の時間には、よく噛んで、好き嫌いをしないで食べる児童の姿が多く見られるようになり、健康に良い食べ方が身についてきた。また、食事マナーにおいても意識の向上が見られた。
埼玉県 花咲徳栄 高等学校	・「食育推進」という部分で、たくさんの企画を実行できた。また、口コミなどで広まり、出張授業の依頼などが多かった。

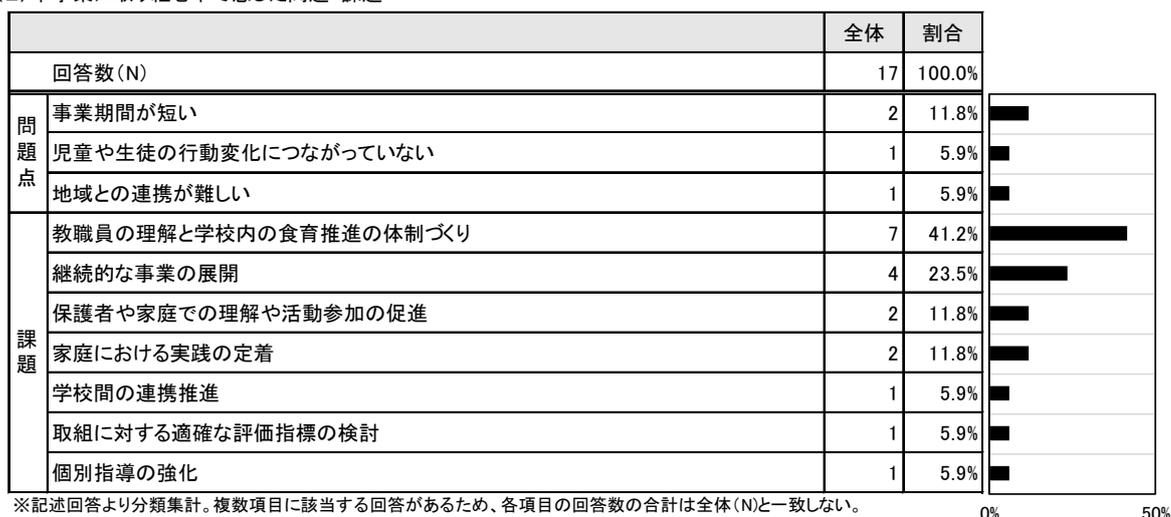
学校名	Q7(1)本事業の取組を通じて得られた成果や手応え
石川県 加賀市立 山代小学校	学校全体で事業に取り組むための食育推進組織の中での中心的な役割を栄養教諭と共に研究主任が担うことで、教職員の意識を高め、計画的な事業の実施を図ることができた。さらに教職員の意識を高めるために、食育の校内研修を2回開催したことで、食育に関する理解が得られたと感じている。計画段階より、主幹教諭や研究主任、養護教諭と検討し、どの事業も学校教育課程を踏まえて効果的な学年や時期に実施できるよう考慮したため、無理のない形で実施できた事業が多かった。
山梨県 甲州市立 奥野田小学校	アンケート結果からも、学校で取り組んだ内容について児童の変容が見られたのは、大きな成果だったと思う。児童自身が、考えたり、深く学んだりすることはとても効果のあることだと思う。
岐阜県 下呂市立 下呂小学校	保護者が子供たちのはたらきかける姿から感じたり、各種PTA活動において保護者同士が話し合ったりするなど、「食に向き合う時間」が増えたことで、食に対する意識が高まり、家庭の実践につながった。
愛知県 瀬戸市立 水野中学校	食に関する意識も全体的に高まり、望ましい食習慣や食事のバランスを考えようとする意識、和食の文化を伝えようとする意識や生産者や生き物に対する感謝の心などが高まり、各家庭での行動に表れ始めていることがアンケートからうかがうことができる。家族がともに会話をしながら食事をする共食の場をつくる機会にもなった旨のことも多数寄せられている。
三重県 名張市立 名張小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食教育についての校内研修会を行ったことで、具体的な食教育の進め方について共通理解が図られ、教師自身の食への関心が高まったと感じる。</li> <li>・給食指導等について、学年部で交流することができ、ともに指導力向上の取組ができた。</li> <li>・担任とのティーム・ティーチングによる授業を行い、効果的な授業実践を行うことができた。</li> <li>・教師自身の食への関心が高まったことから、給食の残量も減少傾向にある。</li> <li>・学校アンケートで、保護者より食教育の実践内容についてや、給食について好意的な意見が多数書かれた。</li> </ul>
三重県 名張市立 つつじが丘 小学校	給食関係業者や地域の方とのつながりを、さらに強くすることができた。給食や食育に対する関心を高めてもらうことができたと思う。
三重県 名張市立 百合が丘 小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA行事「みんなで語ろう会」やTTで行った食教育の授業参観、食育授業交流会、地域職人による講演会、養護教諭と連携した健康懇談会等を通して、以前より食教育が学校全体で行うものと捉えられるようになった。</li> <li>・保護者対象の給食試食会や、児童・教職員を対象にした「わたしたちのきゅうしょく」上映会で、給食室の1日を視覚的に知らせることで給食には多くの人が関わり作られていること、感謝を持って食べることへの理解が進んだ。</li> </ul>
島根県 浜田市立 三隅小学校	各学年に応じた体験活動は児童の食に関する知識や関心を高める手立てとして有効であった。また、学校給食において苦手な食べ物を継続して出すこと(何度も経験することで子供たちは食べられるようになる・学ぶ)ということが残食調査から成果として挙げられる。
徳島県 三好市立 辻小学校	食に関する指導に対しての学校長の理解があり、そのリーダーシップの下、学校の全教職員が連携・協力して、食に関する指導に関わり、継続的かつ効果的な指導ができたと感じている。学級担任や養護教諭と連携してのティーム・ティーチングや給食指導などを通して、教職員に食に関する指導の在り方を伝え、栄養教諭が配置されていなくても学校全体で食育に取り組む連携体制づくりができた。また、様々な取組の中で、児童の食に関する興味関心が高まり、朝食を家族と一緒に食べる児童の割合や、ゆっくりよく噛んで食べる児童の割合、伝統的な食文化や行事食を学ぶことは大切だと思う児童の割合などが上がった。また、日頃の学校生活の中で児童が食に関する話題を出すようになり、自校のよいところは食育に取り組んでいるところであると認識し、学校や地域に誇りをもっている姿が見られ、子供たちの成長を感じている。
福岡県 宇美町立 宇美小学校	校内食育推進委員会を通して、栄養教諭と主幹教諭が中心となり、学校全体として全職員で共通理解を図り、食育について年間計画や指導の内容について十分に検討したことで、より充実した実践につながった。

## ii) 本事業に取り組む中で感じた問題・課題

モデル事業の取組を進める中で、栄養教諭等として感じた問題や課題について、自由記述による回答をみると、「教職員の理解と学校内の食育推進の体制づくり」が課題として多くから挙げられた。

また、モデル事業としては予算面の手当てもあって取組が充実したが、モデル事業が終わったあと、今後いかに継続的に事業を展開していくか、という点が課題であるという声も比較的多く聞かれた。

Q7(2) 本事業に取り組む中で感じた問題・課題



学校名	Q7(2) 本事業に取り組む中で感じた問題・課題
北海道 七飯町立七重小学校	食育教室や親子料理教室、試食会、講演会等、保護者の体験プログラムも多く準備したが、食に関心の低い保護者は、なかなか参加してもらうことができなかった。食の授業では、子供を通して多くの家庭との連携を図ることができたので、関心の低い家庭とつながる効果もある程度期待できると考えているが、すべての家庭と連携を図ることは、これからも課題になると思う。
青森県 田子町立田子小学校	家庭での食生活の改善について、いかに学校での取組を浸透させていくかが今後の課題であると考えます。
山形県 川西町立小松小学校	・本校の栄養教諭が産休・育休のため不在となり、また町の担当者も異動のため代わってしまい、事業を立ち上げるまでに時間がかかってしまったこと。 ・本校の教頭と学校栄養士が中学校の栄養教諭の協力を得ながら進めなければならなかったこと。
福島県 三春町立三春中学校	事業実施期間が短い。すでに教育課程が決まった後で新規で事業を実施するため、関係者・関係機関との調整が難しい。
福島県 新地町立新地小学校	栄養教諭が中核となり取り組んだが、教職員全員の理解と協力を得る体制作りが課題である。(食育関係校務分掌以外の教員へのつながり)
栃木県 宇都宮市立今泉小学校	限られた時間の中で最大限の効果を得られるように、給食の時間や教科等の学習など計画的に食育を推進する必要がある。
埼玉県 花咲徳栄高等学校	・「食育」の部分は、家庭(保護者)の関わりが大部分を占めるため、学校だけの活動では不十分である。 ・本校は、全校生徒の人数も多く、全員に周知徹底させるには時間と労力が非常にかかるため、継続した地道な取組を行っていくしかない。 ・学校長のリーダーシップや、学校内の組織づくりによって、大きく左右される。 ・地域との連携の部分で苦労した。(スピーディーに進まない)

学校名	Q7(2)本事業に取り組む中で感じた問題・課題
石川県 加賀市立山代小学校	今年度行ってきた食育に関する事業をどのような形で残し継続していけるのかを、今年度中に検討していきたい。また、「事業を受けている」ということで高まっていた教職員の意識が継続するような働きかけを、どのようにしていったらよいかとっている。また、効果がある取組であったが予算が伴うものについては、市の推進委員会でも検討課題として上ったが、実施できる見通しは立っていない。
山梨県 甲州市立奥野田小学校	学校が中心となり食育に取り組んだことで成果もあったが、行動変容という部分ではやはり家庭の関わりが大きいので、これからさらにどうやって家庭を巻き込み進めていくかが今後の課題だと思う。
岐阜県 下呂市立下呂小学校	今日的な食に関わる課題を学級担任がとらえた上で、栄養教諭との連携のもと子供たちに指導していける学校推進体制の整備
愛知県 瀬戸市立水野中学校	食育の取組を始めて期間は短く、成果目標数値の変化が、指導によるものか、1年での生徒の生活の変化によるものなのかははっきりしない。経年による数値の変化を見ていかなければいけない。そのためにも、今年度取り組み始めた指導を、生徒にも教員にも負担なく継続していくことが課題である。学級担任や教科担任が教科や領域の系統性を考え、日常での食や健康に関する授業の取組について工夫しながら、発展的に継続していく努力が必要である。 また、本事業での予算執行が可能になったのが6月の半ば以降で、12月末までに成果をまとめるというのは、かなり難しいことであった。
三重県 名張市立名張小学校	・本事業では、予算的にも恵まれた中で、地域の方々、外部機関の方々には講師として関わっていただくことができた。今年度だけで終わらせず、今後も継続的に取り組むには一定の予算の確保が必要になる。 ・児童は、実際に調理したり、体験したりするものについては印象に残りやすいが、話を聞くなど、活動が少ないものについては印象に残りにくいと感じた。
三重県 名張市立 つつじが丘小学校	給食試食会については、学校の実態を知ってもらい良い機会だととらえている。ただし、今後も継続して実施していくには、教職員の理解も求めていかなくてはならないと考えている。
三重県 名張市立 百合が丘小学校	・自分の健康につなげるための学習は、低学年から積み重ねているので、食に関する知識はある程度はついてきている。しかし、実際の給食では好き嫌いや残食なども見られ、実際の食生活にはつながっていないことが課題である。
島根県 浜田市立三隅小学校	本校独自として魚を中心とした取組を実施してきたが、69%の家庭が週の半分以上は魚を食べている。数値として高いといえる。元々数値が高いものをどこまで求めるのか。また、家庭で魚を食べる機会があっても魚を苦手とする児童が多いのはなぜか？という疑問を抱いている。現在、どんどん給食の残食率も減ってきていることから、もう一度児童の意識調査を実施することや今後、家庭における魚の喫食率を指標にするのではなく、別の指標を掲げて取り組むことが必要だと感じている。
徳島県 三好市立辻小学校	今年度の取組では、食に関する知識の定着を図るため、集団指導を重点的に実施し、一定の成果を上げた反面、個別の相談指導を要する児童への対応は十分でなかった。今後は、対象者の抽出方法を検討し、対象者一人一人の身体状況、環境などを把握し、組織的に対応していくことが求められる。そのため、児童の実態把握を定期的に行い、個別の相談指導に関する適切な評価指標を設定していく必要がある。また、今年度の取組は自校を中心に行ってきたが、今後は、小中学校9年間を通して発達段階に応じた系統的な食に関する指導がなされるよう、学校間や教職員の連携の在り方を深めていく必要があると感じている。長期的には、幼稚園・高校とも連携をすることで、間断ない食育が展開できると考える。
福岡県 宇美町立宇美小学校	校内で取り組んだ様々な食育の指導が、実際の食生活の中において、大きな変化や家庭での継続した取組にまでは至っていない。今後、継続した取組へと発展していけるような手立てが必要である。

⑧「つながる食育」推進に係る成果や課題

i) 学校と家庭や地域等との連携など「つながる食育」推進という点で得られた成果・効果

家庭や地域等との連携など、「つながる食育」というテーマでモデル事業を進めたことにより、どのような成果・効果があったかについて、自由記述回答をみると、「学校と地域の関係者や保護者との連携が深まった」という成果や「保護者の意識向上や家庭での実践につながった」という成果が多く、栄養教諭等から挙げられた。

また、地域内での地産地消が促進されたり、地域活性化につながったといった効果がみられたモデル校もあった。

Q8(1) 学校と家庭や地域等との連携など「つながる食育」推進という点で得られた成果・効果

	全体	割合	
回答数(N)	17	100.0%	
学校と地域の関係者や保護者との連携が深まった	11	64.7%	
保護者の意識向上や家庭での実践につながった	10	58.8%	
学校の取組やPTA行事等の充実が図られた	4	23.5%	
児童生徒の食に対する意識の向上や実践につながった	3	17.6%	
学校や家庭での地産地消が図られた	2	11.8%	
地域活性化につながった	2	11.8%	
食文化の継承が図られた	2	11.8%	

※記述回答より分類集計。複数項目に該当する回答があるため、各項目の回答数の合計は全体(N)と一致しない。

学校名	Q8(1)「つながる食育」推進という点で得られた成果・効果
北海道 七飯町立七重小学校	食育は、それぞれの立場で完結できるのではなく連携が不可欠なので、「つながる」というテーマは食育を推進する上で、ふさわしいテーマだったと思う。
青森県 田子町立田子小学校	“つながり”を意識して、点状にあった取組につながりを持たせる方法を探り、また、新たな挑戦についてチームで取り組めるように提案するなどして、仲間と一緒に試行錯誤を重ねた半年間だった。つながりを意識することで、“みんなで”取り組めたように思う。本校栄養教諭は、多方面にわたり、食育の架け橋となってくれた。
山形県 川西町立小松小学校	・学校やPTAの行事内容を食育の観点から充実させることができたこと。 ・地元高校の協力内容を広め、さらに連携を深めることができたこと。
福島県 三春町立三春中学校	食生活に関心の低い家庭でも、子供から話をすることによって、食を考えるきっかけができた。
福島県 新地町立新地小学校	①保護者と連携した実践により、家庭での農産物・水産物使用の増加 ②双方向となる家庭との連携「すこやか」の実施。「すこやか」は年5回健康をテーマに各自が目標を立て、1週間取り組む。その後自分で振り返り、保護者からコメントをもらい、担任もコメントする。6年間1冊のファイルにして取り組むことにより、各個人毎に健康な体をつくるための実践化を図ることができる。 ③地元生産者・水産業者とつながることができ、震災後初めて地元産水産物を活用した学校での食育講座を実践できた。また地元りんご農家への見学学習も再開できた。 ④直売所との連携を図ることができ、農家の活性化にもつながった。また水産物の安全管理体制の構築もはかり、風評被害払拭となり、学校給食での地元水産物を10種まで増やすことができた。(小女子、しらす、たこ、ひらめ、いか、あじ、ほっき貝、さわら、小ガレイ、いなだ) ⑤地元農家・水産業者とつながることができ、震災後途絶えていた郷土料理(今年度はほっきご飯)の継承も図ることができた。 ⑥行政等の関係機関ともつながることができ、食育推進事業の円滑化を図ることができ、今後の体制整備にも役立った。

学校名	Q8(1)「つながる食育」推進という点で得られた成果・効果
栃木県 宇都宮市立今泉小学校	家庭で料理や皿洗いなどにも取り組む児童が増え、自分や家族の食生活を考えながらよりよくしようとする態度が育ってきている。「食育チャレンジシート」を通して双方向で取り組むことにより、保護者の食に対する意識の向上が見られた。家庭での食生活の改善が図られ、児童の変容につながった。
埼玉県 花咲徳栄高等学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・改めて「食育」の大切さを感じていただいた保護者や、学校での取組に感謝してくださる保護者が多かった。</li> <li>・収穫体験など初めての試みに協力的であった。</li> </ul>
石川県 加賀市立山代小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校側が趣旨を明確にし、熱意を持って働きかければ、家庭や地域が協力してくださることを改めて感じた。</li> <li>・公の機関とは、教育委員会が間を取り持つことでスムーズに連携が図れたと感じている。</li> <li>・地域との連携は伝統料理を伝えてくれる祖父母世代の方々以外にも、伝統産業、観光業、農業、商業など各専門分野の方々の協力のおかげで、様々な体験活動を行ったり、貴重な話を聞くことができた。</li> <li>・保護者には、児童が学んだことを家庭に伝える活動で温かいコメントをいただくなど、学校の取組を見守り協力してくれる様子がうかがえた。12月に行った保護者アンケートでは、「来年も継続して食育に取り組んでほしい」という声が多数上がった。</li> </ul>
山梨県 甲州市立奥野田小学校	学校・家庭・地域がつながり、取組を進めたことで、広がりのある食育を行うことができ、児童または保護者の食に対する興味関心を高めることにつながったと思う。また、意識の高まりだけでなく、行動にも変化が見られたのは大きな成果だったと思う。
岐阜県 下呂市立下呂小学校	子供が学習したことをきっかけに学校と家庭の相互関係が構築されつつある。食育関係部局との連携、生産者の思いを感じる学習を通して地域との心のつながりができた。それにより食品ロスの問題や地産地消などへの見方や考え方が広がった。
愛知県 瀬戸市立水野中学校	<p>給食の適量指導や給食試食会、各通信やホームページなどを通して適量を食糧の意識が生徒、保護者ともに高まり、それを実践していこうとする意識の向上がうかがえるようになった。肥満度-20%未満の「やせ型」の減少にも表れている。また、保護者対象に行った行事では参加者から「大変良かった」という回答を多数得ている。いくつかの行事は小学校の保護者からも広く参加者を募ったことで、小学校保護者の中学校に対する不安の解消にもなり、小学生、中学生が同じ話題で食卓を囲む機会を作ることができた。</p> <p>2年生が体験入学を行った「どろんこ村」の方とは、野外活動後もつながりができ、2学期の食育講演会にも講師として学校に来ていただいた。1、3年生や小中学校の保護者にも生産者の思いや命のつながりについて考える機会を作ることができた。さらに、瀬戸市アグリカルチャー推進プロジェクトチームとの連携で、地元の野菜を給食に取り入れることで、地産地消の意識を高めることができた。</p>
三重県 名張市立名張小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養護教諭や地域の保健師と連携し、健康懇談会や授業を企画、実践することにより、より内容の濃いものとなった。</li> <li>・生産者や給食納入業者を講師に迎え、その道の専門家から話を聞いたり豆腐作りを教わったりしたことは、有効であった。</li> <li>・地域の生産者や給食納入業者、地域の方などを招いての給食試食会を開催することで、双方をつなぐことができ、よりよい給食づくりのきっかけとなった。</li> </ul>
三重県 名張市立 つつじが丘小学校	食育講演会や給食試食会、授業における取組や、アンケート及び残食調査を通して、改めて「食」を見つめ直す機会となった。児童の生活に根ざした食育を今後展開していくために、必要な過程だったと思う。
三重県 名張市立 百合が丘小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の食材を使った和菓子作りを経験することで、地場産物を味わい、伝統的な食文化を学ぶことができた。</li> <li>・家庭と連携するための手立ては、今まで保護者対象の試食会や通信が主であったが、授業参観やPTA行事の食育講演会、健康懇談会で給食への理解を深めるとともに、保護者と学習内容や課題を共有する機会を得ることができた。</li> </ul>
島根県 浜田市立三隅小学校	本校の食に関する取組をまずは家庭や地域へ知ってもらえたこと。アンケート結果からは成果があったとはいえないが、本事業を受けたことで関係機関や地域とのつながりが深まった。こうしたつながりから情報交換を行い、様々な活動を展開できたことは成果だといえる。

学校名	Q8(1)「つながる食育」推進という点で得られた成果・効果
徳島県 三好市立辻小学校	本事業を進めるにあたり設置した食育推進委員会で、学校の食育推進の考え方と方向性を示し、理解を得たことで、家庭・地域と連携した取組を充実させることができた。 児童の実態や食生活上の問題点、成果や課題について定期的に見直しを行い、保護者や地域の人々の意向を十分に考慮しながら、地域の実態に応じた取組を実施した。 特に、保護者を招いての親子体験学習プログラムや地域の人々を招いた地域食育交流会などでは、子供の教育的効果はもちろん、家庭や地域への啓発にもなった。参加した保護者や地域の人々からは、食育の機会があまりないためこのような事業で食に関わることができてよかったとの感想が多くあった。 また、地域ボランティアや地域の既存の団体などを効果的に活用することで、食育のネットワークを構築することができた。
福岡県 宇美町立宇美小学校	家庭との連携を図った食育プログラムを実施することで、より食についての関心が高まり、食生活の見直しや進んで健康作りを考えながら食に関する取組を実践している家庭が増えた。

## ii) 学校と家庭や地域等との連携など「つながる食育」を推進する上での問題・課題

一方で、「つながる食育」というテーマで取組を進める中で、具体的に問題となったことや課題となったことについて、自由記述回答をみると、それぞれの取組内容に応じて様々な問題点や課題が挙げられたが、なかでも食育に熱心な保護者と関心が低い保護者の温度差があるなど、「保護者の協力や参加が限定的だった」という指摘が比較的多くから挙げられており、それとも関連して、「保護者の意識醸成と参加の拡大を図ることが課題」という意見も比較的多くから聞かれた。

Q8(2) 学校と家庭や地域等との連携など「つながる食育」を推進する上での問題・課題

		全体	割合	
回答数(N)		17	100.0%	
問題点	保護者の協力・参加が限定的(温度差がある)	7	41.2%	
	関係者間の協議日程の調整が難しい	2	11.8%	
	生活習慣の改善に至らなかった	1	5.9%	
	情報発信が不足していた	1	5.9%	
	地域との連携が難しい	1	5.9%	
	生徒全員に均等な機会が与えられない(高校)	1	5.9%	
課題	保護者の意識醸成と参画拡大	5	29.4%	
	食育の計画的な展開と取組の継続	4	23.5%	
	関係者間の連携の推進	2	11.8%	
	校内の食育推進体制の構築	1	5.9%	
	町ぐるみでの目標をもった取組の推進	1	5.9%	
	家庭との双方向の仕組の構築	1	5.9%	

※記述回答より分類集計。複数項目に該当する回答があるため、各項目の回答数の合計は全体(N)と一致しない。

学校名	Q8(2)「つながる食育」を推進する上での問題・課題
北海道 七飯町立七重小学校	それぞれの立場において多忙な中で、定期的な話し合いの場を設定すること。
青森県 田子町立田子小学校	本事業は、学校を核とした取組だったが、食育を進めるためには、学校だけでなく、様々な方の力が必要であることを実感した。子供を中心として家庭や地域でも得意分野を生かした積極的な参画を望む。

学校名	Q8(2)「つながる食育」を推進する上での問題・課題
山形県 川西町立小松小学校	関係機関との連携において、事前の打ち合わせのための時間確保が課題である。
福島県 三春町立三春中学校	家庭とのつながりで食に関する行事を設定しても、保護者の参加率が低い。人数を集めるために学校行事の際に計画しても、規定人数より集まらないなど、生徒も保護者も忙しい。
福島県 新地町立新地小学校	理解を得られにくい保護者との連携の在り方が課題である。授業参観等参加しやすい時にイベントを企画しても不参加の保護者がいる。アンケート結果に「食育に興味がない」と記入してくる保護者への意識付けの在り方が課題である。
栃木県 宇都宮市立今泉小学校	学校から積極的に啓発等の働きかけを行っていく。家庭・地域との連携を密にする。計画的に食育を推進する必要がある。
埼玉県 花咲徳栄高等学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生となると、家庭とのつながりは二極化(過保護か放任か)になる。</li> <li>・本校は生徒数の規模が多いため、全員に均等に機会を与えることができない。</li> <li>・地域との連携の部分で苦労した。(スピーディーに進まない)</li> </ul>
石川県 加賀市立山代小学校	児童・保護者とも食に関する意識の高まりは見られたものの、生活習慣が大きく変化するまでには至らなかった。今後も学校での食育の継続や家庭への働きかけを継続していく必要がある。また、校区が持つ課題として、PTA活動に熱心な保護者が多い反面、複雑な家庭環境で育つ児童もおり、生活習慣の改善が見込めない家庭も少なくない。担任や養護教諭と連携し、指導内容を検討していかなければならない。
山梨県 甲州市立奥野田小学校	学校だより、学年だより、学年部会、PTA役員会など多くの場面で「つながる食育推進事業」について情報を発信し、家庭との連携を図ってきたが、個々の家庭での温度差が大きく感じられた。今後、この差を少なくしていくことが課題となる。
岐阜県 下呂市立下呂小学校	兼務する栄養教諭以外に各学校で食育を推進する教員の位置づけとその教員のコーディネート力
愛知県 瀬戸市立水野中学校	保護者対象の各行事に参加していただいた方からは、アンケートで大変好意的な言葉をいただいているが、今年度については参加者の数は限定的であった。他の保護者からは、事後のアンケートにおいて「食に関心がない」「もともと食に関する意識は高い」という回答が寄せられている。しかしもともと意識が高い家庭においても、生徒は(食習慣は)親に言われるからそうしている様子が見受けられていた。正しい食に関する理解に基づき、自ら考え、判断できる力を育成できるよう家庭の力は不可欠である。情報の伝え方や行事において、より多くの保護者の理解が得られるよう、より効果的な方法を考えなければいけない。
三重県 名張市立名張小学校	どうしても通信やホームページなど、学校からの発信が多くなるが、家庭や地域とつながるために、双方向にはたらくための、有効な方策を考える必要がある。
三重県 名張市立 つつじが丘小学校	一年を通して、本当に多くの取組を実施したが、毎年行うのはかなり困難である。継続可能な取組を実施していくことで、大きな効果が得られると思う。関係者とも協議しながら、継続可能で効果的な取組を今後も模索したい。
三重県 名張市立 百合が丘小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・和菓子作りなどの体験的な学習は、地域の食材や食文化を知るうえで効果的であることが分かったが、この地域の教育力が単発的な取組として終わらないように検討していく必要がある。</li> <li>・家庭との連携を図る機会は少ない。今年度は参観やPTA行事を活用できたが、ホームページの活用がうまくできなかった。</li> </ul>
島根県 浜田市立三隅小学校	学校と地域のつながりはできてもそこから家庭へつなげることが難しい。また、現在、それぞれの立場でいろいろな取組はされているが、関連性が持たれていない。今後、関係機関と連携し、町全体でひとつの目標を掲げて取り組むことがつながる食育を推進していくことで重要なことだと考える。
徳島県 三好市立辻小学校	家庭との連携については、参加した保護者の感想は取組に協力的な意見がほとんどであったが、取組に一度も参加していない保護者もいた。今後は、「参加できない」または「参加しない」理由等を考慮し、その家庭への働きかけや行事の日程調整を行っていく必要があると考える。また、このような課題は家庭の個別の事情を背景とするものであり、一挙に解決できるものではないため、一步一步着実に家庭との歩み寄りを積み重ねていく必要があると感じている。 また、地域との連携については、活動の成果を積極的に周知するなどして、協力していただいた人々の自己効力感を高める工夫をしていく必要がある。

学校名	Q8(2)「つながる食育」を推進する上での問題・課題
福岡県 宇美町立宇美小学校	食に関して意識が高く、食育の取組に積極的に実践している家庭とそうでない家庭との差がより大きくなったように思う。食に関して意識の低い家庭を、今後どのようにして意識を高め、食育の取組に参加してもらおうか等の課題がある。

### ⑨今後の食育推進に向けた意見等

モデル事業を通じて得た知見を踏まえ、今後の食育推進に向けた意見を求めたところ、14人の栄養教諭等からそれぞれの取組を踏まえた様々な意見が寄せられた。

なかでも、モデル事業としての取組により一定の成果が得られたことを踏まえた上で、「単年度の取組に終わらせず、今後も継続的に取り組んでいくことが必要（又は取り組んでいく予定）である」という指摘が比較的多くから挙げられた。

Q9今後の食育推進に向けた意見等

		全体	割合	
回答数(N)		14	100.0%	
意見	継続的な取組が必要(または予定)	4	28.6%	■
	家庭や地域を巻き込んで進めていくことが重要	2	14.3%	■
	発達段階毎の系統的な指導や仕組が必要(幼→大学)	2	14.3%	■
	学校ごとの工夫が必要	1	7.1%	■
	食育担当者同士のつながりが必要	1	7.1%	■
	栄養教諭の負担軽減の仕組が必要	1	7.1%	■
感想	関係者が一体となって食育に取り組む良い機会	2	14.3%	■
	食育に恵まれた地域と実感	1	7.1%	■
	栄養教諭の役割を再確認した	1	7.1%	■
	PDCAを意識した事業が実施できた	1	7.1%	■
	意義のある取組ができた	1	7.1%	■
要望	企画提案への要望(複数年実施や予算措置)	2	14.3%	■
	栄養教諭の配置基準見直し(配置拡大)要望	1	7.1%	■
	モデル校同士の意見交換	1	7.1%	■

※記述回答より分類集計。複数項目に該当する回答があるため、各項目の回答数の合計は全体(N)と一致しない。

0% 20% 40%

